

1 研究活動の概要

本センターでは「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」と言う。)に基づき、
バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良
国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発
自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発
環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立
地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立
中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発
農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発
栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立
など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

平成15年度においては、「岩手県水田農業改革大綱」「食の安全・安心プロジェクト」「オンリーワン産地強化プロジェクト」など、新たな農業施策に対応する試験研究課題の推進を図った。また、「試験研究評価制度」の円滑な運用、産学官連携研究の推進、研究成果の普及・定着化の推進、技術を通じた国際交流・協力を務めた。なお、岩手県行財政構造改革プログラムに基づく試験研究方向等や地方独立行政法人制度について、所内プロジェクトチームを編成して検討し報告書を取りまとめた。

2 研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

平成14年度に導入した試験評価制度の円滑な運用に係る各種調整を行った。また、評価研究に係る各種企画調整(所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等)及びセンターに関する広報及び情報システムの効果的な運営に努めた。

企画調整にあつては、所内諸会議(企画運営会議、全体会議等)や委員会(研究報告等企画編集委員会等)等の運営、関係機関(国、県及び関係団体)との連絡調整(推進会議等)を行った。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参観デー(本部・畜産・県北)、現地ふれあい農業研究センター(花巻、二戸、遠野地方振興局管内)、科学技術週間行事としての春季一般公開、一日子供農業研究員の開催及び「研究レポート」の発行等に取り組んだ。また、公開セミナーは「環境保全型農業の最近の動向と秋田県大潟村における実践事例」(秋田県立大学生物資源科学部教授 佐藤 了氏)及び研究紹介として「病害虫防除技術の開発状況」(病害虫部病理昆虫研究室室長 鈴木 敏男氏)により本部を会場に実施した。

岩手県行財政構造改革プログラムに基づく事務事業見直し等、及び地方独立行政法人制度について所内プロジェクトチームを編成し検討した。検討結果については、報告書として取りまとめた。

農業経営研究室

生産性の高い経営管理方式の確立、担い手の育成支援方策、地域活性化方策、県産農産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

生産性の高い経営管理方式の確立では、野菜作経営における雇用労働力活用のポイントと効果として、雇用期間の長期化とパートに責任を持たせる雇用管理の実践で、家族労働時間の軽減及び時間当たり所得の向上が期待できることを明らかにした。また、大豆不耕起栽培は慣行栽培に比較して25%程度省力できるが、播種機導入等により生産費が増加することから、播種機の広域的な導入や麦播種との汎用利用の必要性を提示した。

担い手の育成支援方策では、県北部の葉たばこ農家は規模拡大志向が強いが、技術導入支援や助成の主体であった耕作組合やJT組織の合理化が進みつつあり、行政による側面的支援の必要性を提示した。また、酪農は規模拡大に伴い経営管理の高度化が進みつつあることから、指導機関の経営管理指導能力向上の必要性を提示した。

地域活性化方策では、大消費地に向けたウルの出荷荷姿として、200g入りテープ結束とボリューム感重視バラ包装の2つの荷姿ラインアップとすることを提案した。

県産農産物の販売戦略では、産直施設における生産流通支援システムの導入効果として、在庫・販売情報を活かすことにより残品率の減少や売り上げ増加につながる事、及び消費者から目的の商品が購入しやすくなったこと等が評価されていることを明らかにした。

(2) 農産部

水田作研究室

水田作研究室では、水稲の奨励品種決定調査、直播栽培を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稲原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定本調査調査では、中生の「岩手 68 号」(良食味、耐冷性極強、穂もち耐病性極強)を有望と認め、平成 16 年度は栽培法も含め検討することとした。また、予備調査では多収系統の「岩南 29 号」など粳 5 系統及び糯 1 系統を有望と認め新たに本調査・現地調査に供することとした。

平成 15 年は、6 月下旬～8 月の低温・日照不足により出穂の遅延・障害不稔が多発し、作況指数 73 (10a 当たり収量 387 kg) となり、平成 5 年 (作況指数 30、10a 収量 152 kg) 以来 10 年ぶりの不作となった。水稲冷害の要因を水稲研究を担当する部・研究所の連携のもと多方面から解析を行い研究成果として取りまとめるとともに、総合的な解析を加え「岩手県における平成 15 年水稲冷害の技術的解析」を発刊した。

産米の品質評価向上技術として、タンパク・アミロース等食味関連成分の変動性を検討するとともに、刈り取り適期の客観的的判断技術として「色彩色差計」による籾熟色の判断技術を取りまとめた。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稲除草剤 6 剤 (初・中期一発剤 4 剤、後期剤 2 剤) を県防除基準に採用するとともに、減農薬栽培等に対応し、移植前処理・移植後深水管理・機械除草等を組み合わせた雑草防除法を成果として取りまとめた。また、水田畦畔管理に関して、その実態と農業者が望む畦畔管理技術について検討した。

省力・低コスト技術として、平成 11～14 年の地域基幹研究を踏まえて、一層の生育の安定化と収量向上をねらいに、3 ヶ年の計画で開始 (県単研究) するとともに、育苗・移植作業の省力化・軽労化を目的としたロングマット水耕苗の苗質改善について検討し、巻き取り 2 日程度前の追肥が有効であることを明らかにした。水田農業確立の一環としてホールクロップサイレージ用イネ栽培について、紫波町現地で直播及び堆肥投入を基本とした実証研究を行った。

水稲原々種は 7 品種 (62 系統) 474kg、原種はうち 5 品種 17,260kg (岩手 60 号含む) もち 2 品種 4,400kg を生産した。また、優良種子生産のため、発芽能力の検定法及び浸種条件 (水温・浸種期間) について検討した。

水稲育種研究室

生産力検定試験において、61 組合せ 77 系統を供試し、30 組合せ 35 系統を選抜した。また、生産力検定と各種特性検定試験の結果から、岩手 73 号 (早生の中、葉もち極強)、岩手 74 号 (中生の早、耐冷性強)、岩手 75 号 (晩生の中、穂もち・耐冷性極強)、岩手紫 76 号 (晩生の早、紫黒米、耐冷性やや強) 以上主食用 3 系統、新規需要 1 系統を有望と認め、地方番号を付し、平成 16 年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした。

直播生産力検定試験等で 7 系統が有望と認められた。また、新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロース 4 系統、酒米 6 系統、糯 11 系統が有望と認められたことから、以上を次年度の生産力検定試験で継続検討する。

育種技術の効率化に資する目的で取り組んだ課題「DNA マーカーを用いた水稲「岩南 23 号」の穂もち圃場抵抗性に関する解析」においては、「岩南 23 号」が穂もち圃場抵抗性遺伝子 Pb1 を高い確率で持つことを明らかにし、研究成果として取りまとめた。

直播品種の開発に資する目的で取り組んだ課題「直播水稲選抜のための耐ころび型倒伏性指標品種の選定」では、寒冷地における直播品種・系統選抜のための指標となる品種を明らかにし、研究成果として取りまとめた。

2003 年の冷害において耐冷性「極強」の「いわてっこ」に不稔が多く発生したことから、低温の経過と品種の関係から、その要因を明らかにし、指導資料として取りまとめた。

委託試験では、京都大学を中心に取り組まれている「圃場インターフェイス型シミュレーターの開発」の課題の中で、供試 11 品種の寒冷地におけるいもち病抵抗性のデータを収集した。さらに、最終年のため、2003 年 12 月 24 日～25 日に当センターにおいて、Asian Rice - Research Network Meeting を開催し、本課題に係る研究者により過去 3 年間の研究成果検討を行った。

応用生物工学研究室

当研究室は、1. 遺伝子組換え作物の特性調査、2. 地域遺伝資源の利用、3. 革新技術支援の 3 つを柱に研究を実施している。

1. 遺伝子組換え作物の特性調査：生工研で育成した組換え水稲やリンゴを対象に、耐病性検定手法の確立や接種検定による特性評価を実施している。水稲では閉鎖系温室内における検定対象病害であるいもち病の安定した誘発技術と接種技術について検討中であり、16 年度中に成果として取りまとめる予定である。リンゴでは、主要な糸状菌病に対する評価を終了し、成果として取りまとめた。

2. 地域遺伝資源の利用：主に増殖技術の開発を内容とするこの分野では、リンドウ F1 品種の採種用親株の増殖

に関して、エゾリンドウの主要な 4 系統の葉片由来の増殖株を対象として、生育の斉一性や雌雄生殖器官の機能、さらには増殖株を用いた交雑後代の調査により、葉片由来増殖株が採種用親株として利用できることを明らかにし、成果として取りまとめた。農業新技術現地実用化（21 世紀型）で取り組んでいるサトイモの産地強化試験では、北上市の二子芋を材料に、培養苗、及び培養苗由来芋の追跡調査を実施し、年次毎の生育特性とその有効な利用方法を示唆すると共に、培養による効果は 3 年目には無くなり、慣行芋と同様になることを明らかにし、成果として取りまとめた。次年度からはこれらの成果を利用し、普及センター、JA の協力を得ながら現地試験を実施する。

3. 革新技術支援：キクにおいて診断が難しく、生産上問題のある TSWV（キクえそ病病原ウイルス）の ELISA 法による検定は、葉よりも茎を検体とすることで確実な診断が可能であることを明らかにした。また、市販の診断キットを用いる場合でも茎を検体とすることで、現地での簡易で迅速な診断が可能であり、現場のスキルアップにつながる成果として取りまとめた。

生産工学研究室

当研究室では水稻育苗・移植作業の軽労化を目的として「ロングマット水耕苗移植栽培技術」の実用化研究を進めてきたが、本年度はこの目的に賛同を得た農家を 2 戸選定して現地導入実証を行った。今回は移植時に近隣の農家が集まり、テレビでも紹介されたことから反響が大きかった。来年度は農家自ら育苗に取り組むところである。

麦・大豆立毛間播種栽培については、寒冷地の当県にとって 2 年 3 作を実現し農地の高度利用を図る手だてとして有効な技術であるが、雑草管理技術の開発など難しい部分があった。本年度は播種直前中耕などの技術導入によりこの点を解決して 2 年 3 作体系を研究成果として取りまとめた。

また、ねぎの省力機械化実証結果を取りまとめ、全自動収穫機と根葉切り皮むき機を利用することにより慣行作業対比で 62% と、大幅な省力が可能であることを研究成果として示した。

グランドカバープランツの動力吹付緑化工法については、前年度施工箇所での初めての越冬であり植種による生育の差異があったが、秋までにほぼ全面が被覆された。また、本年度は現地での施工実証を行った。

環境に配慮した農村整備手法の確立では、前年の調査結果よりホタル水路をカワナが生息可能な環境とするために石灰石の設置を実施した。今後は良好な植生繁茂などに取り組む。

傾斜畑の土壌流亡防止対策としては、ほ場表面流を集中させず流速を抑え速やかにほ場外へ導水すること、ほ場末端部にグリーンベルト等の緩衝地帯を設けることなどが考えられた。また、水田ほ場整備関係では、ほ場整備後の不同沈下抑制のためには、施工前に基盤土の含水状態を低めにかつ一定に近づけておき、施工時に重機の走行軌跡を分散させることが必要であることを明らかにした。

(3) 園芸畑作部

果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種改良を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、JM 台木を利用した省力的な低樹高化栽培による省力化、軽労化、低コスト化技術の開発を目標に、新技術地域実用化研究促進事業により「リンゴわい化栽培における省力・安定生産のための JM 台木利用・早期成園化技術の開発」試験を進めている。15 年度は本事業の最終年度にあたり、改植園地における JM 7 台木の特性等を明らかにするとともに、JM 台木の特性や繁殖法など 5 年間の研究結果を取りまとめた。

また、地域基幹農業技術体系実用化研究「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」により、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指した研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省力した食味本位のリンゴ（葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等）を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものであり、15 年度は食味本位の栽培に適した樹相診断基準、摘花・摘果剤利用による摘果作業の省力効果、摘果剤による着色管理の省力効果を明らかにした。

リンゴの品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでおり、本年度は奨励品種に採用された「岩手 6 号」の品種登録申請を行い、6 月 27 日に「黄香」の名称で出願が受理された。また、「黄香」が斑点落葉病に対して高い抵抗性を有することを明らかにした。さらに、「王林」に代わりうる有望品種として「シナノゴールド」の特性解明を開始した。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発を進めている。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入している。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

野菜畑作研究室

畑作物では、実需者ニーズに対応した高品質・安定生産技術及び超省力・低コスト生産技術体系の確立が求められており、優良品種選定・栽培法試験に加えて、最終年度を迎えた地域基幹研究「不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力栽培技術の確立」及び県単事業「小麦の冬期播種栽培技術の確立」、中間年度の「麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発」等に取り組んだ。新規課題では「麦後大豆の高品質栽培技術の確立」に着手した。有望視した品種・系統としては、大豆の極早生品種「ユキホマレ」、納豆用極小粒系統「東北146号」等であった。

野菜では、労働力の脆弱化が進行する中で、消費者や食品産業等のニーズに合った生産出荷を進めるとともに、生産基盤の強固な経営及び産地の育成が課題となっている。そのような中で、新規課題としては国庫委託の「東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発」及び県単事業の「果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立」に着手した。また最終年度を迎えた、北上市及び遠野市で実施している「21世紀型農業経営モデル実証試験地事業」等、継続課題に引き続き取り組んだ。

本年度の試験研究成果としては、「普及」区分で「小麦の冬期播種栽培技術体系」、「だいでず不耕起栽培技術と作付体系への導入法」、「品種 はとむぎ‘東北3号’」、「指導」区分で「ピーマン PMMoV 抵抗性品種‘京鈴’‘さらら’の特性と導入上の注意事項」、「ねぎの7月穫り作型におけるチェーンポット育苗の適応性」等、合計12成果をとりまとめた。

花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の育成を図るとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、スターチス「アイスター」の花色の幅を広げること、ゆりの小輪系品種等を育成すること、を目的に選抜を行った。本年度は、小ぎくの「アイマムシリーズ」として、「オレンジ、レッド」の2品種を育成し、県の奨励品種とした。

なお、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、本年度から新たに政策形成プロジェクトで「りんどう生産拡大緊急対策事業」を実施することとなり、親株の大量増殖や新規親系統の収集に取り組んだほか、採種用親株ハウスに冷房装置等の施設設備の整備を行った。

新商材開発では、枝物花木について 品目選定と栽培特性の解明、効率的増殖法と育苗技術の確立、栽植方式や整枝・仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」の安定生産技術の確立等に取り組んだ。

長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大や鉢物りんどうの開花調節等に取り組んだほか、宮古地域において、沿岸の気象条件を活用し施設を利用した花き周年生産モデル経営の確立実証に取り組んだ。

また、りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明を図るため、土壌作物栄養研究室及び病理昆虫研究室と共同で、発生実態調査や植物ホルモン剤の影響調査等に引き続き取り組んだ。

南部園芸研究室

現在地（標高15mの平坦地）には場を移転して試験を開始してから、平成15年度は3年度目となった。

県南部や沿岸地域の気象条件を活かした野菜花き園芸技術の開発研究とともに、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を実施している。

花きに関する試験では、アレンジメントアスターの隔離床による栽培法やアネモネの年内穫り作型における高品質栽培のための種・定植時期についての試験を行った。また、太陽光発電を利用してヒートポンプによるトルコギキョウの冷房育苗を行い、品質向上を図るための試験を行った。

野菜に関する試験では、イチゴの短日処理による秋出し超促成作型の確立のための適品種の検討、寒冷地における夏秋イチゴの生産安定技術の確立のための種子系イチゴ品種の株仕立て法の検討、イチゴ低温カット栽培における高設栽培技術の確立のための省力的な施肥法についての検討を行った。

また、高規格ガラス温室を利用したトマトの養液栽培による周年栽培の本県における導入の可能性についての知見を得るための実証試験を行ったほか、省力化・高品質栽培技術の確立のための少量土壌培地耕によるイチゴのベンチアップ栽培やトマト栽培についての試験を実施した。

特に、本年度までイチゴの品種「さちのか」の特性を評価した結果、大果率、糖度及び硬度が高く、品質の優れた品種であり、本県において「女峰」に替わる促成品種であることを明らかにした。（試験研究成果[普及]）

なお、「さちのか」は今年度本県の奨励品種に選定された。

(4) 生産環境部

環境保全研究室

持続的生産管理技術体系の確立に向け、以下の試験研究に取り組んだ。

農業農村が持つ環境保全機能維持に関して、水田環境の評価法を検討するために、有機物施用、農薬使用状況の異なる水田や用・排水路でのヤゴ等水生昆虫の生息状況を調査した。また、育苗箱施用殺菌剤および初中期一発除草剤の成分はアカネ属トンボ幼虫羽化率への影響が小さいことを明らかにした（研究成果・研究）。

肥料・農薬等に起因する負荷軽減に関して、今年度から環境影響が懸念される硝酸性窒素について化学肥料削減等による負荷軽減効果の評価を開始した。また、農薬について水稲減農薬栽培地域の環境負荷軽減効果を評価するため、水系における農薬残留調査を開始した。

持続的生産管理技術の総合組立に関して、大豆、主要野菜 9 種類、りんごについて農薬、化学肥料投入の実態を明らかにし、新しい特別栽培農産物認証制度に対応した客観性のある慣行レベル策定に資するため、農薬使用実態等を取りまとめた（研究成果・行政）。また、水稲では温湯浸漬法、プール育苗、ケイ酸資材等の代替技術および地域の病害虫発生リスクに対応した農薬の選択で減農薬栽培が可能となることを示すとともに（研究成果・指導）、キャベツについて早春まきまたは防虫ネットの利用により殺虫剤を使用せずに栽培できることを提示した（研究成果・指導）。さらに、有機農産物（トマト、ピーマン）の栽培と関連して、有機物の施用が土壤の化学性（塩基バランス）や微生物性（グルコース吸収速度）に大きく影響することを明らかにした（研究成果・研究）。

食の安全・安心支援に関して、水稲の栽培管理およびホウレンソウ、キャベツ、ネギ等の品種利用によるカドミウム吸収抑制試験を開始した。また、米、果菜類についてイムノアッセイによる簡易農薬残留分析法の適用性に関する試験を開始した。

土壌作物栄養研究室

土壌作物栄養研究室の取り組んだ課題は有機循環・持続農業関係と土壌・栄養診断関係に大別される。

有機循環・持続農業関係で、堆肥づくりはマニュアルスプレッダーを用いた家畜ふん堆肥と農作物残渣の混合堆肥化と利用技術を提案した（研究成果・指導）。また県内堆肥センター産たい肥は乾物窒素濃度と利用率を考慮することで、水稲の 50% 減化学肥料栽培に利用できることを明らかにし、現地試験への応用を提案した（研究成果・研究）。堆肥の土壌に対する影響はこれまでの有機物連用試験で整理し、畑土壌では化学肥料の土壌酸性化防止に牛ふん堆肥が有効であり、鶏糞や豚ふん堆肥を用いた無化学肥料栽培も土壌酸性化を防止できること（研究成果・指導）、水田では有機物連用の土壌中養分蓄積傾向が土壌型により異なる傾向がみられることを明らかにした（研究成果・指導）。また持続農業の一つである特別栽培農産物の慣行レベル策定が昨年水稲に引き続き求められ、野菜、果樹、畑作物の現地での施肥指導の実態を調査してとりまとめた（研究成果・行政）。

土壌・栄養診断は有機循環や持続的農業を支える基礎技術である。土壌診断ツールとしてフラットベッドスキャナーで簡易に土壌炭素が推定できることを示した（研究成果・研究、特許出願中）。また春先の降水量が少ない年は乾土効果を考慮し水稲での窒素減肥対応を行う診断指標を示した（研究成果・指導）。水稲減農薬栽培にも関係する可給態ケイ酸の測定法はリン酸緩衝液法が水稲のケイ酸吸収と相関が高く、従来の診断珪酸法に変わる手法として提示した（研究成果・指導）。栄養診断では夏秋どり露地きゅうり栽培における栄養診断部位を明らかにした（研究成果・研究）。H15 の最大トピックであった冷夏の気象条件は、水稲幼穂形成期や減数分裂期の栄養診断に基づく追肥対応が不可能であった。しかし結果的に H15 水稲冷害に及ぼした施肥や有機物管理の影響は H5 冷害に比較して小さく、減数分裂期低温遭遇のタイミングが栄養状態よりも障害不稔発生に大きく影響したことが分かった。その中でも低地力土壌における堆肥の施用効果は今年度も増収に結びついた。

保鮮流通技術研究室

推進構想に定める試験研究の基本方向 5「地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立」を推進するため、食の安全に対応した県産農産物の多面的品質評価技術、農産物の流通中の高鮮度貯蔵・輸送技術、そして アグリビジネス創出・地産地消運動に対応した地域特産加工品の開発に取り組んだ。

このうち、県産農産物の多面的品質評価技術に関しては、おいしさ、栄養、機能性の評価法の確立と実用化を目標に、寒締め菜っぱやキャベツの栄養成分の変動実態を調査するとともに産地で簡便にできる簡易成分評価法の普及実用化、黒大豆えだまめ「ちゃげ丸」の食味にもとづく収穫適期の設定を行った（研究成果・指導）。また、雑穀の新たな系統の機能性や食味関連形質の評価を行った。

農産物の高鮮度貯蔵・輸送技術に関しては、流通事情に応じたトマトの予冷法（研究成果（追補）・普及）、ねぎの真空予冷条件や保蔵流通における温度管理の留意点を明らかにした（研究成果・研究）。葉菜類の通いコンテナ流通上の課題解決方策、蜜入りりんごの出荷時期拡大技術など、本県農産物のおいしさを消費者に届ける技術の確立に

つとめた。

さらに、地域特産加工品の開発に関しては、衣川村特産のハトムギ、大船渡地方特産の柿、本県特産のモチ米、雑穀、及びりんごのオリジナル商品の開発に取り組んだ。その結果、ペースト状ハトムギ茶の製造技術（研究成果・普及、特許出願中）、餅加工における浸漬短縮技術（研究成果・普及）、白ヒエのレトルト粥製造技術（研究成果・普及）の開発に成功した。これらの技術は、農村加工品の商品力向上や、産地と地場食品企業との連携による食品加工に役立つよう、技術移転を行う予定である。また、県産小麦の製パン利用のための適地マップづくりや、主要農産物の食品産業における商品化条件の解明に取り組んだ。

(5) 病害虫部

病理昆虫研究室

持続性が高く、安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、効率的病害虫防除技術の開発、環境にやさしい病害虫防除技術の開発、農薬使用量を削減した病害虫総合管理技術（IPM）の開発に取り組んだ。

水稲分野では、ばか苗病、苗立枯細菌病及びもみ枯細菌病に効果の高い生物農薬トリコデルマ・アトロピリテ水和剤の特性と使用法を示し普及に移す成果とした。また、水稲初期害虫を箱施用剤により地域一斉に防除すると2～4年間無防除にできることを明らかにし、本年の発生量から翌年の防除要否を判断するための基準を確立し普及に移す成果とした。また、平成15年産種子の病原菌汚染調査を実施し、冷害年産でみられるいもち病菌や苗立枯病を引き起こすトリコデルマ菌の汚染が確認され、平成16年育苗対策について緊急に取りまとめた（水田作研究室、環境保全研究室と共同）。

果樹分野では、りんごの難防除病害である紫紋羽病に対し効果の高いフルアジナム水和剤の使用法を示し普及に移す成果とした。また、性フェロモン剤利用りんご園において、年間12回散布とする病害虫防除回数削減モデルを構築した。

野菜分野では、ピーマン主要害虫に対し生物農薬と紫外線除去フィルムや防虫網等物理的防除法を組み合わせたIPMを開発し普及に移す成果とした。また、平成14年に発生が確認されたきゅうりの難防除病害であるホモプシス根腐病について、有効薬剤の検索を試みたがいずれも効果不十分であった。

花き分野では、りんどうこぶ症に対する土壌消毒剤の効果は判然としなかった。ウイルス等の関与については弘前大学の協力をいただいているが未だ結論が得られていない。また、リンドウ褐斑病の発生生態を解明し、効果的な防除法を示し普及に移す成果とした。各作物の病害虫防除試験の結果に基づき、より効果的な防除が行えるよう平成16年度病害虫防除基準を改訂するとともに、内分泌攪乱作用が懸念される農薬を7剤削除した。また、登録農薬が極めて少ない地域特産農作物のホップ、根みつばについて、登録取得に向けて薬効、薬害等試験を実施した。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や肥育技術の向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定20頭を実施し、1日当たり平均増体量（DG）は1.31kgであり、平成16年度現場後代検定開始予定牛6頭（選抜率30%、平均DG1.33kg）を選抜した。間接検定は「敏琴」「糸月」「玉99017」の3種雄牛について終了した。県有優良短角種雄牛「勝富」「高福」「辰錦」「川辰」の人工授精用凍結精液を生産した。

また、日本短角種個体認証システムを確立するため、短角母牛と子牛全個体約3000頭の血液採取を実施するとともに、飼養農家の同意を得ながら血統、枝肉、DNA情報の短角牛データベース構築に取り組んだ。

黒毛和種放牧肥育素牛の肥育特性について、舎飼牛と比較し肉質では差がなく、増体では同等又はそれ以上であることを明らかにした。

日本短角種の肥育試験では、「いわて短角和牛」適正出荷のための肥育試験を実施し、飼料給与方法による出荷体重、歩留基準への影響を明らかにするとともに、全期粗飼料多給型肥育技術の確立のための試験や肉質評価の独自基準に係る消費者アンケートを実施した。

養豚では、食品リサイクル飼料による肥育試験を実施し、枝肉成績に大きな影響なく飼料費を低減させることを明らかにした。

養鶏では、岩手県在来の天然記念物「岩手地鶏」を活用し、平成8年度から単鶏×（有色コーニッシュ×岩手地鶏（赤笹））交配鶏の選抜淘汰を繰り返し作出した基礎鶏雄と最も適した雌系を決定する組み合わせ試験を行い、ホワイトロック×ロードアイランドレッド（雌）との交配により発育や食味に優れた本県独自の特産肉用鶏を開発した。

家畜飼養研究室

地域資源の活用による自給飼料を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、高位乳生産の飼養管理及び省力管理技術の確立に取り組んだ。

子牛の育成技術では、5～7ヶ月齢の乳用雌子牛をペレニアルライグラス放牧草地に粗飼料の給与を随時組み合わせての集約放牧を検討した。放牧期間の DG0.94kg と良好であり、初回授精の目安とする体重・体高へはそれぞれ 12.0・11.5ヶ月で到達したことで、併給飼料を組み合わせた集約放牧は標準発育値を上回る技術であることを確認した。また、育成後期牛（16ヶ月齢～分娩前28日）の同草種放牧草地における集約放牧試験でも放牧期間の DG0.87kg と標準発育値を上回ったことから、受胎牛の集約放牧でも妊娠を継続しながらの発育も十分確保できる管理技術であることを明らかにした。

高位乳生産を目標とする飼養管理技術では、ET 技術により造成された牛群の能力検討と併せてルーメンパイパスアミノ酸製剤を飼料添加する試験により、高泌乳量・高蛋白乳など産乳性向上への効果について研究を継続している。

省力管理技術試験において、搾乳ロボットの多回搾乳が繁殖性に及ぼす影響について検討した。分娩後の初回発情（45日以内）、人工授精の実施可能日（80日以内）とも2回搾乳と同様の日数であることが判明した。哺乳ロボット（自動哺乳装置）の応用試験では、哺乳の基本となる馴致回数が哺乳牛一括導入に比較し順次導入では少ないことから、馴致経験牛の哺乳行動が順次導入牛の馴致を促す効果のあることが認められた。

家畜工学研究室

牛の改良と増殖を促進するために遺伝子解析技術、胚移植技術ならびに核移植技術等のバイオテクノロジー課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。

胚移植技術では、パイオプシー胚の受胎率向上を図るため Open Pulled Straw を用いた超急速ガラス化法について検討したところ生存性の高い保存技術であることを実証した。2胚移植による双子生産では、両側子宮角移植が血液キメラの発生を軽減することを明らかにする一方で、血液キメラは DNA 解析による個体識別を困難にするため、識別には毛根の併用が必要である点を実証した。

短期種雄牛造成技術の確立を目的とした体細胞クローン技術の課題は最終年となり、異常産と染色体の関連、遺伝的相溶性比較、技術活用の効果について検討した。その結果、ドナー細胞の継代による染色体異常出現は軽微なものであり、融合や培養系が染色体異常の要因として示唆された。相溶性検討では、ドナー牛とクローン牛の表現型が極めて類似すると共に DNA は全く一致することを確認した。技術活用により種畜造成が 1.5年短縮し、低コストな手法となることを明らかにした。クローン技術の発展はさらなる種雄畜造成期間短縮の可能性を示唆し、新たな課題として取り組むこととなった。体細胞クローン産子は累積で5頭のドナー細胞を供試して7頭取得した。

遺伝子解析では、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症と遺伝性疾患が疑われる乳頭異状について、原因遺伝子特定のため解析を実施している。内水頭症は、常染色体劣性遺伝病であり、原因領域は3番染色体のセントロメア近くに存在することを世界で初めて明らかにすると共にマーカー診断法を確立した。現在、原因遺伝子特定に向けて研究を継続している。また岩手県では黒毛和種産子に乳頭の数、形状等の異状を示す事例が散発し、原因の究明が求められているため家系調査と DNA 解析を開始した。他の DNA 解析では、親子判定、DM 牛の保因検査等の実施、日本短角種の個体識別のための有効なマーカーセットを構築した。

飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

優良草種・品種の選定課題のうちとうもろこしでは、国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成1系統、畜産草地研究所育成1系統、長野県中信農業試験場育成3系統、計5系統について検討した。乾物収量では標準品種比較して同程度か少なく、黒穂病についても同程度か弱い傾向にあった。

また、市販とうもろこし品種についても同様な調査を行い、極早生種1品種、中生種5品種が、耐病性、乾物収量、TDN 収量とも標準品種に比較し優れる結果を得ている。引き続き調査を行い H16 年度には推奨品種候補として選抜する予定である。

ソルガムについては市販12品種の中から収量性、耐倒伏性に優れた中生品種「FS5（ゴールドソルゴー）」及び極晩生品種「東山交22号（秋立）」の2品種を推奨品種として推薦したほか、中型ロールベラーを使ったソルガム収穫調製技術を開発し成果として提案した。牧草部門では、採草用牧草の播種基準策定において、基幹草種（OG, TY）に組み合わせる草種としてイタリアンよりペレニアルライグラスが優れていること、基幹草種同士の組み合わせは競合により TY の維持が困難であること等の知見が得られ、中標高地の播種基準策定に向け次年度の試験を進めることとしている。

細断型ロールペーラーの基本性能調査では、2条刈りハーベスター使用時で作業能率が21.4a/hrであり、作業が2名で行えることから延べ労働時間が従来体系に比べ43%と省力的であること。また、調製したロールペールサイレージ品質も安定しており夏期給与時の品質劣化や廃棄ロスが微量であることを明らかにした。次年度は収穫体系における効率的なハンドリング手法について試験を予定している。

家畜ふん尿処理関係では、液状コンポスト調整システムの確立で、曝気によるBODの低減化や臭気強度・臭気指数の改善効果を明らかにした。また、曝気中の温度は雑草種子死滅のための十分な温度と時間を保持することから肥料としての利用性が高いことがわかった。H16年では調整過程で分離される固形分(家畜ふん)の堆肥化特性について調査を予定している。

外山畜産研究室

中山間地域における肉用牛振興を推進するため、公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立に取り組んでいる。

これまで試験成果として公表してきた黒毛和種放牧子牛の発育向上技術についての現地実証試験を実施した結果、集約的な体系で親子放牧を行うことにより、子牛の放牧時の発育が標準発育並みとなり、舎飼育成子牛と同等の市場上場時体重及び市場価格が期待できる。又、複合経営においては、放牧利用により増頭が可能となり、舎飼農家以上の所得が期待できることを明らかにした。

集約放牧における草地の季節生産性平準化について検討し、初夏施肥と8月上旬の追肥により年間収量を減収させることなく、8月以降の後期生産割合の増加が認められた。

粗砕力キ殻の施用が土壌PH及び牧草に及ぼす影響を検討した結果、土壌PH矯正効果が認められ、土壌改良資材として利用可能であることが示されたことから、平成16年度新規課題で適正施用量等についての検討を行う。

放牧地における林地配置が水度保全機能に果たす役割について検討を行い、等高線上に50m間隔で巾30mに配置した中間林帯により、造成後30年経過した公共牧場において、草地崩壊防止等の水度保全機能が維持されていることを明らかにした。

日本短角種DM牛の基礎群の造成と繁殖・発育特性について検討し、DMヘテロ繁殖雌牛を10頭(農家からの買い上げ8頭、研究室保有牛2頭)確保し、人工授精により9頭が受胎した。又、DMホモ子牛(雌)の発育はノーマル子牛に比べ、体重、体長、体高、十字部高はほぼ同等であるが、寛幅、座骨幅が大きい傾向が見られた。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策事業」の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補17頭を選抜するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子3頭計20頭の直接検定を実施し年度内に12頭終了、残り8頭については平成16年6月までに終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として6頭を選抜する。また、平成11年度の直接検定により選抜された「秀福菊」「北勝次郎」「糸安菊」「磐勝倉」「菊晴光」「平茂夏」の6種雄牛について間接検定を実施し下記の成績が得られた。

ア．1日当たり増体量(kg)

平茂夏(1.11) > 糸安菊(0.97) > 磐勝倉(0.94) > 北勝次郎(0.93) > 秀福菊(0.90) > 菊晴光(0.80)

イ．口・ス芯面積(cm²)

平茂夏(52) > 糸安菊(51) > 秀福菊(49) > 北勝次郎(45) > 磐勝倉(44) > 菊晴光(44)

ウ．脂肪交雑(BMS)

糸安菊(4.0) > 平茂夏(3.3) > 菊晴光(3.3) > 北勝次郎(3.2) > 磐勝倉(2.6) > 秀福菊(2.5)

平成15年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「糸安菊」「北勝次郎」「平茂夏」は脂肪交雑、バラの厚さ及び枝肉重量の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。特に「糸安菊」は脂肪交雑(BMS)成績は全国歴代6位に位置し、「平茂夏」については枝肉重量及び1日当たり増体量が全国平均を大きく上回る成績であった。

平成14年度に現場後代検定を開始した「菊茂勝」「滝夏恒」「平照幸」の3種雄牛については、平成16年2月までに調査が終了し、その枝肉格付成績から肉質等級4・5率が75%と優秀な成績であった「菊茂勝」が県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。

(7) 県北農業研究所

営農技術研究室

県北地域の特色を生かした環境保全型農業技術の開発、野菜等の省力機械化技術の確立に関する試験研究に取り組んだ。

環境保全型農業技術に関しては、化学肥料低減技術の分野では、「ながいも栽培における岩手町大規模養豚団地産発酵豚ふんの利用法」(試験研究成果 普及)を明らかにし、地域有機物資源による基肥窒素量の全量代替技術を確立した。また、「いわてっこ」の期待生育量と栽培法」及び「いわてっこ」の生育栄養診断基準」(試験研究成果 普及)を策定し、安定栽培の基準を明らかにした。さらに、土壌改良資材や稲わら腐熟促進資材を含む肥効調節型肥料の水稲への一発施肥技術について検討し、「水稲栽培における秋一発施肥法」(試験研究成果 研究)として取りまとめた。畜産由来有機物活用の分野では、奥中山地域における液状コンポスト調製利用システムの確立試験を継続実施し、16年度までに液状コンポストの草地や飼料作物への利用技術の確立を目指す。

省力機械化技術に関しては、大豆・小麦の2年3作等を可能とする立毛間播種栽培技術の開発に取り組み、「畑地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培の雑草管理技術」(試験研究成果 研究)として取りまとめた。また、ほうれんそう調製機の効率的運用によりさらなる省力化を図るため、「ほうれんそう品種の調製機適応性判定指標」(試験研究成果 指導)を取りまとめた。ほうれんそうでは機械収穫が残された課題となったが、引き続き、産地育成研究室と共同で「機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明」に取り組んでいる。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・ほうれんそう・だいこんについて実施し、今年度はほうれんそう、だいこんの有望品種各1品種の特性を研究成果(普及)にまとめ、「推奨品種」として普及に移した。

また、県北地域の主要野菜品目である雨よけほうれんそうについては、大型経営体育成のための技術開発として、夏期高温時の遮光技術やかん水方法及び効率的な栽植様式について、普及センター設置のリーディングファームと連携・検討し、「ほうれんそうの株充実度と遮光の関係」について研究成果(研究)にまとめた。

さらに、県北地域に自生する山菜ウルイについて、促成用母株養成技術や無加温被覆による半促成栽培技術の確立に取り組み、「簡易被覆によるウルイの早出し継続出荷技術」として研究成果(普及)にまとめた。

なお、カラシナ鋤込みによる萎ちょう病軽減技術や機械収穫に適した品種選定について、2年目のデータ集積を行った。新規課題「高冷地レタスの高位安定生産技術の確立」については、優良品種の選定や腐敗性病害軽減のための耕種的防除対策について、場内及び現地試験(一戸町奥中山)において重点的に取り組んだ。

花きでは、地域基幹研究「中山間地域における産地マーケティングに基づく特産の高付加価値農産物の生産技術」において、中山間地域に適した宿根草・花木の品目組み合わせによる長期継続出荷体系について現地実証(二戸市上斗米)を行い、「宿根草・枝物の品目別収益性」として研究成果(指導)にまとめた。

また、花壇苗については、地域資源を活用した鉢上げ用土の開発、間伐材チップによる鉢上げポットの実用性検討、県北地方に適する新品目の選定に取り組んで。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通畑作物(小麦、大豆等)、雑穀の栽培法や品種の選定及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稲では、「いわてっこ」について、栽植密度、施肥法、地域別の栽培試験を実施し、期待生育量と栽培法の一部改訂をおこなった。また、平成15年度の異常気象に対応した研究を実施し、異常気象下における作柄実態とその要因を解析し減数分裂期の15日間冷却度と障害不稔発生程度との関連や障害不稔多発時における刈取時期と品質の関連について明らかにした。

普通畑作物では、県北地方に適応する小麦、大豆等の多収・用途に応じた品種の選定や製パン特性に優れた小麦品種「ゆきちから」の栽培法を検討した。また、ダツタンソバの播種期、播種量等の検討をおこない、栽培法を普及に移した。

雑穀では、ひえの無農薬機械化栽培法の現地実証やあわの除草法等の検討をおこなうとともに、雑穀栽培の普及拡大に努めた。

葉たばこでは、環境にやさしい資材として注目されている生分解性マルチの実用性を検討するとともに、分解を促進するための後処理技術についても試験を実施した。

3 平成 15 年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	S	T	U	V	W	X	
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテック	家畜バイオテック	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	地域活性化	やませ利用	生物機能	有機農業	保鮮流通	農産物加工	情報利用	
企画経営情報部	21	2	3	1	3		1	1	1						8									1	
農業経営研究室	21	2	3	1	3		1	1	1						8									1	
農産部	92	65	2		2	1				13			1			1	7								
水田作研究室	24	24																							
水稲育種研究室	37	37																							
応用生物工學研究室	15				1	1				13															
生産工學研究室	16	4	2		1								1			1	7								
園芸畑作物部	122		19	39	34	27							3												
果樹研究室	39			39																					
野菜畑作物研究室	41		19		22																				
花き研究室	24					24																			
南部園芸研究室	18				12	3							3												
生産環境部	66	5	4	3	5	5						10	19	1	2							4	4	3	1
環境保全研究室	18		1									8	3	1								4			1
土壌作物栄養研究室	27	5	1	1	2	3						2	13												
保鮮流通技術研究室	21		2	2	3	2							3		2								4	3	
病害虫部	25	1	3	1		2								16						2					
病理昆虫研究室	25	1	3	1		2								16						2					
畜産研究所	50	1					12	17	13		6	1													
家畜育種研究室	11							8	2		1														
家畜飼養研究室	8						8																		
家畜工學研究室	5										5														
飼料生産研究室	16	1					4		10			1													
外山畜産研究室	6							5	1																
種山畜産研究室	4							4																	
県北農業研究所	68	10	13		9	2						3	8	3	10	2			7					1	
営農技術研究室	21		2		1							2	6	3	3	1			2					1	
産地育成研究室	18				8	2							1		3	1			3						
やませ利用研究室	29	10	11									1	1		4				2						
総計	444	84	44	44	53	37	13	18	14	13	6	14	31	20	20	3	7		7	2	4	4	3	3	

(2) 試験研究課題一覧

凡例

- 主査研究室：小課題の主査研究室
 実施区分：継；継続課題、終；終了課題、新；新規課題、繰上；繰上終了、過；過年度終了、未；未着手
 推進構想：推進構想分野の中課題コード（小課題のみ記載）
 連番：小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に（ ）表記
 課題名：小課題は太字表示、細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
 開始・終了年：課題の開始年度、終了年度。（平成 H表記）
 担当研究室：小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名
 （同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記）
 予算：国庫研究；国庫補助研究、国庫委託；国庫(独法)委託事業、民間委託；民間委託事業、
 令達；令達予算研究、県単研究；県単研究予算、県単採種；主要農作物採種管理費
 実施No：予算配分されている実施課題の連番。（細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない）

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構想	連番	(課題番号) 課題名	開始年	終了年	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No									
農業経営	継	D-1-1-2	1	(H15-01) 果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証	H15	H17	農業経営	新	-	1									
				(1000)果菜作経営における専作化のための課題整理	H15	H15	農業経営	終・新	県単研究		2								
				(2000)果菜類栽培における省力技術の体系化	H15	H15	野菜畑作	終・新	県単研究										
				(3000)果菜作専作経営に向けた規模拡大・農業労働力の確保 利用調整方策	H16	H17	農業経営	未	-										
				(4000)果菜類省力技術の体系化総合実証	H16	H17	農業経営	未	-										
				〃	H16	H17	野菜畑作	未	-										
	終	N-1-1-4	2	(H15-37) (夏秋期生産を目指したイチゴの) 超促成・越年株型 経営モデル作成	H15	H19	農業経営	新	国庫委託	3									
					N-5-1-0	3	(428) 農産物の市場動向分析	H13	H17	農業経営	継	県単研究	4						
								N-5-5-3	4	(H15-03) 食品産業との連携による農産物加工品の商品化条件の 解明	H15	H17	農業経営	新	県単研究	5			
											〃	H15	H17	保鮮流通技術	新	県単研究	6		
											〃	H15	H17	保鮮流通技術	新	県単研究	6		
					N-1-2-2	5	(729) 県南部沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編 モデルの策定	H13	H15	農業経営	終	県単研究	7						
								N-2-1-1	6	(700) 主業型農家の経営発展過程分析による育成支援方策の解 明	H13	H15	農業経営	終	県単研究	8			
											N-5-2-1	7	(701) 担い手の販売能力高度化に対応した産地の成立条件の解 明	H13	H15	農業経営	終	県単研究	9
								N-5-3-1	8	(483) 地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通シス テムの確立				H11	H15	農業経営	終	-	
														(1000)地域農業資源の探索・評価と新商材の需要把握（現地 支援研究）	H11	H14	農業経営	過	-
(1200)新商材の市場・消費ニーズの把握	H12	H14	農業経営	過										-					
(2000)高付加価値農産物の生産・流通技術の開発（技術開発 試験）	H11	H15	農業経営	過	-														
(2100)商品特性に対応した流通チャネルの探索	H12	H15	農業経営	終	国庫助成	10													
(2200)コマツナ等の冬春期安定生産技術の開発	H11	H13	産地育成	過	-														
(2300)山菜の安定生産技術	H11	H15	産地育成	終	-														
(2310)ウルイの母株養成技術の開発	H11	H15	産地育成	終	国庫助成	11													
(2330)有望山菜の生産安定技術の検討	H11	H14	産地育成	過	-														
(2400)特産的花きの商品化技術	H11	H15	産地育成	終	-														
(2410)有望品目・有望品種の収集及び選定	H11	H13	産地育成	過	-														
(2420)有望品目・有望品種の栽培法の検討	H12	H14	産地育成	過	-														
(2430)宿根草・花木を組み合わせた長期継続出荷体系の 確立	H13	H15	産地育成	終	国庫助成	12													
(2500)雑穀類の高付加価値化技術	H11	H15	やませ利用	終	-														
(2510)ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術	H11	H15	やませ利用	終	-														
(2511)ヒエの育苗法の検討	H11	H15	やませ利用	終	国庫助成	13													
(2512)アワの除草法の検討	H11	H15	やませ利用	終	国庫助成	14													
(2513)ヒエの無農薬水田移植栽培技術の検討	H11	H15	やませ利用	終	国庫助成	15													
(2514)アワを中心とした雑穀類の害虫の発生生態の解 明と防除対策	H11	H15	営農技術	終	国庫助成	16													
(2515)ヒエ・アワの乾燥調製法	H11	H15	営農技術	終	国庫助成	17													
(3000)消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証（体 系化実証試験）	H11	H15	産地育成	終	-														
(3100)高付加価値花きの生産技術の現地実証	H11	H15	産地育成	終	-														
(3110)有望宿根草・花木の現地適応性	H11	H14	産地育成	過	-														

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実施 区分	予算区分	実施 No		
農業経営				(3120)低コスト高品質栽培の実証	H12	H15	産地育成	終	国庫助成	18		
				(3200)高付加価値雑穀の生産技術の現地実証	H11	H15	営農技術	終	-			
				(3210)ヒエ・アワの無農薬栽培現地実証	H11	H15	営農技術	終	-			
				(3212)ヒエ・アワの乾燥調製法	H11	H15	営農技術	終	国庫助成	19		
				(3300)開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定	H13	H15	農業経営	終	国庫助成	20		
				(3400)雑穀類の高付加価値化技術	H11	H15	やませ利用	終	-			
				(3410)ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術	H11	H15	やませ利用	終	-			
				(3411)ヒエ・アワの無農薬機械化栽培現地実証	H11	H15	やませ利用	終	国庫助成	21		
				(4000)雑穀の加工適性評価	H12	H14	保鮮流通技術	過	-			
				(5000)雑穀の粒形を活かした加工品の開発	H12	H15	保鮮流通技術	終	国庫助成	22		
				X-2-3-1	9	(751)生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システムの開発	H13	H15	農業経営	終	-	
						(1000)生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システムの開発	H13	H15	農業経営	終	国庫委託	23
		(2000)作物生育適地評価システム開発	H13	H14	土壌作物栄養	過	-					
		(3000)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	H13	H14	営農技術	過	-					
線上	N-6-3-1	10	(H15-02)産地直売施設における情報活用	H15	H15	農業経営	新	県単研究	24			
水田作	継	A-2-6-1	11	(803)水稲奨励品種決定調査	H14	H18	水田作	継	-			
				(1000)予備調査	H14	H18	水田作	継	-			
				(1100)中晩生系統	H14	H18	水田作	継	県単採種	25		
				(1200)早生系統	H14	H18	やませ利用	継	県単採種	26		
				(2000)本調査	H14	H18	水田作	継	-			
				(2100)中晩生系統	H14	H18	水田作	継	県単採種	27		
				(2200)早生系統	H14	H18	やませ利用	継	県単採種	28		
				(3000)現地調査	H14	H18	水田作	継	県単採種	29		
				A-3-1-4	12	(H15-04)水稲湛水直播の安定栽培技術の確立と実証	H15	H17	水田作	新	-	
				(1000)直播水稲の生育安定化及び収量向上技術	H15	H17	水田作	新	県単研究	30		
				"	H15	H17	土壌作物栄養	新	県単研究	31		
				(2000)直播栽培の作業性向上技術	H15	H17	生産工学	新	県単研究	32		
				(3000)麦豆等復元田における直播栽培技術	H15	H15	水田作	新	県単研究	33		
				"	H15	H15	生産工学	新	県単研究	34		
				"	H15	H15	土壌作物栄養	新	県単研究	35		
				(4000)直播導入農家の経営評価と経営発展モデルの策定	H15	H17	農業経営	新	県単研究	36		
				A-3-2-1	13	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発	H14	H18	水田作	継	-	
				(1000)水稲作用除草剤第2次適用性試験	H14	H18	水田作	継	-			
				(1100)県央・県南地域	H14	H18	水田作	継	民間委託	37		
				(1200)県北地域	H14	H18	やませ利用	継	民間委託	38		
				(2000)RCヘリを利用した除草剤の散布技術	H14	H14	水田作	過	-			
				(2100)KUH-003K-0.25kg粒剤	H14	H14	水田作	過	-			
				A-4-1-2	14	(58)有望新系統の栽培特性と産米の高品質安定栽培技術の確立	H14	H18	水田作	継	-	
				(1000)水稲粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性	H14	H14	水田作	過	-			
				(2000)水稲粳有望新系統「岩手60号、岩手68号」の栽培特性	H14	H18	水田作	継	県単研究	39		
				(3000)水稲糯新品種「もち美人」(岩南糯19号)の栽培法	H14	H15	水田作	終	県単研究	40		
A-4-1-3	15	(806)県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証	H14	H16	水田作	継	民間委託	41				
A-4-2-1	16	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析	H14	H18	水田作	継	-					
(1000)水稲作況調査	H14	H18	水田作	継	-							
(1100)県央・県南地域	H14	H18	水田作	継	県単研究	42						
(1200)県北地域	H14	H18	やませ利用	継	県単研究	43						
(2000)水稲優良品種の気象反応試験	H14	H18	水田作	継	-							
(2100)県央・県南地域	H14	H18	水田作	継	県単研究	44						
(2200)県北地域	H14	H18	やませ利用	継	県単研究	45						
(3000)水稲作柄成立要因の解析	H14	H18	水田作	継	県単研究	46						
A-5-3-2	17	(740)寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立	H13	H17	水田作	継	-					
(1000)省力・低コスト生産技術体系の実証	H13	H17	水田作	継	国庫委託	47						
(2000)ミニマム防除体系の確立	H13	H14	水田作	過	-							
(3000)良質イネホールクロップサイレージ調整技術の確立	H13	H17	飼料生産	継	国庫委託	48						
A-6-0-0	18	(61)水稲原々種生産	S29	H22	水田作	継	県単採種	49				
19	(62)水稲原種生産	S29	H22	水田作	継	県単採種	50					
終	A-3-1-2	20	(728)大区画水田圃場における圃場畦畔の雑草制御と景観形成技術の確立	H13	H15	水田作	終	県単研究	51			
A-3-3-1	21	(45)水稲栽培における水田雑草の最小限防除技術の開発	H12	H15	水田作	終	-					
(1000)移植前作業と単成分除草剤による水田雑草の防除効果	H12	H15	水田作	終	令達	52						
(2000)移植後の水管理が水田雑草の発生に及ぼす影響	H12	H15	水田作	終	令達	53						

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No	
水田作	A-4-1-1		22	(704)米の品質・食味改善診断技術の開発	H13	H15	水田作	終	-		
				(1000)米の品質・食味変動要因の解明	H13	H15	水田作	終	県単研究	54	
				〃	H13	H15	やませ利用	終	県単研究	55	
				(2000)米品質・食味改善診断システムの確立	H13	H15	水田作	終	-		
					(2100)県央・県南地域	H13	H15	水田作	終	県単研究	56
	A-4-1-2		23	(47)水稲有望品種系統の栽培特性	H12	H15	水田作	終	-		
				(1000)「いわてっこ」の栽培特性	H12	H15	やませ利用	終	-		
				(1100)高品質・良食味安定生産のための栽培法の検討	H12	H15	やませ利用	終	県単研究	57	
					(1200)地域適応性の検討(現地試験)	H12	H15	やませ利用	終	県単研究	58
					(59)水稲優良種子生産のための発芽能力検定法の確立	H13	H15	水田作	終	県単研究	59
L-1-1-2		25	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立	S47	H15	水田作	終	-			
			(1000)水稲栄養の気象・土壌反応(作況)	S47	H13	土壌作物栄養	過	-			
			(2000)水稲作物栄養モデルの作成	H13	H15	営農技術	終	-			
				(2300)いわてっこの生育栄養診断指標	H13	H15	営農技術	終	県単研究	60	
繰上	A-4-2-2		26	(802)籾の加水比含量に着目した水稲の刈取り適期診断技術の開発	H14	H15	水田作	繰上	県単研究	61	
水稲育種	A-1-1-2	継	27	(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討	H13	H17	水稲育種	継	-		
				(1000)分子マーカーを用いた選抜技術の検討	H13	H17	水稲育種	継	令達	62	
				(2000)水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索	H16	H17	水稲育種	未	-		
					〃	H16	H17	応用生物工学	未	-	
	A-1-2-1		28	(5)水稲新規需要等対応品種の育成	H1	H22	水稲育種	継	-		
				(1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査	H1	H22	水稲育種	継	令達	63	
	29	(18)水稲品種特性調査	(1000)東北地域の水稲奨励品種比較試験	H7	H22	水稲育種	継	-			
				H7	H22	水稲育種	継	令達	64		
				S59	H22	水稲育種	継	令達	65		
				H13	H15	水稲育種	終	国庫委託	66		
	A-1-2-2		30	(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	令達	67	
				(7)水稲高度耐病性集積系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	令達	68	
	A-2-1-0		32	(19)水稲品種育成交配試験	S59	H22	水稲育種	継	-		
				(1000)水稲交配試験	S59	H22	水稲育種	継	令達	69	
				(2000)水稲初期世代養成試験	S59	H22	水稲育種	継	令達	70	
				(3000)水稲世代促進試験	S59	H22	水稲育種	継	令達	71	
				(4000)水稲個体選抜試験	S62	H22	水稲育種	継	令達	72	
				(5000)水稲単独系統選抜試験	S58	H22	水稲育種	継	令達	73	
	A-2-1-1		33	(20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成	H1	H22	水稲育種	継	-		
				(1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定	H1	H22	水稲育種	継	令達	74	
				(2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査	S48	H22	水稲育種	継	令達	75	
				(3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査	S62	H22	水稲育種	継	令達	76	
	A-2-1-5		34	(15)水稲生産力検定試験	S58	H22	水稲育種	継	-		
				(1000)生産力検定予備調査	S58	H22	水稲育種	継	令達	77	
				(2000)生産力検定予備試験系統群	S58	H22	水稲育種	継	令達	78	
				(3000)生産力検定本試験	S58	H22	水稲育種	継	令達	79	
				(3100)早生品種	H9	H22	やませ利用	継	令達	80	
				(4000)生産力検定本試験系統群	S58	H22	水稲育種	継	令達	81	
	35	(16)水稲系統適応性検定試験	(1000)水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)	S39	H22	水稲育種	継	-			
				S39	H22	水稲育種	継	国庫委託	82		
			(2000)稲民間育成品種評価試験	H13	H13	水稲育種	過	-			
36	(21)極良食味水稲品種・系統の育成	(1000)食味官能調査	S60	H22	水稲育種	継	-				
			S60	H22	水稲育種	継	令達	83			
			H2	H22	水稲育種	継	令達	84			
			H13	H22	水稲育種	継	令達	85			
			(3000)炊飯米外部構造調査	H13	H22	水稲育種	継	令達	85		
A-2-2-1		37	(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	-			
			(1000)高度耐冷性を有する系統の探索	H2	H22	水稲育種	継	令達	86		
			(2000)障害型耐冷性検定調査	S59	H22	水稲育種	継	令達	87		
38	(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)	(1000)中・晩生水稲系統	S59	H22	水稲育種	継	令達	88			
			S59	H22	水稲育種	継	令達	88			
39	(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験	(1000)中・晩生水稲系統	S52	H22	水稲育種	継	-				
			S52	H22	水稲育種	継	令達	89			
		(2000)早生水稲系統	H9	H22	やませ利用	継	令達	90			
A-2-2-2			40	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	令達	91	
A-2-2-3		41	(26)難穂芽性水稲品種・系統の育成	(1000)穂芽性検定調査	S62	H22	水稲育種	継	-		
					S62	H22	水稲育種	継	令達	92	
A-2-3-0			42	(27)直播適応性水稲品種・系統の育成	H3	H22	水稲育種	継	-		
				(1000)直播関連適応性検定法の検討	H13	H15	水稲育種	終	令達	93	

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No		
水稲育種				(2000) 直播生産力検定試験	H3	H22	水稲育種	継	令達	94		
			A-2-4-1	43	(28) 超多収水稲品種・系統の育成 (1000) 育成系統の施肥反応試験	H2	H22	水稲育種	継	-	95	
			A-2-4-2	44	(29) 醸造用水稲品種・系統の育成	S63	H22	水稲育種	継	令達	96	
				45	(30) 醸造用水稲品種・系統の加工適性試験	H8	H22	水稲育種	継	令達	97	
			A-2-4-3	46	(31) 水稲糯品種・系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	令達	98	
			A-2-4-4	47	(32) 低アミロース水稲品種・系統の育成	H2	H22	水稲育種	継	令達	99	
			48	(860) 採種	S58	H22	水稲育種	継	令達	100		
応用生物 工学	継	I-2-1-1	49	(812) りんどうの組織培養による種間雑種等の作出法	H14	H18	応用生物学	継	県単研究	101		
			50	(H15-06) 玄米、白米などを材料としたDNAマーカー利用による 水稲品種識別	H15	H16	応用生物学	新	県単研究	102		
			I-2-1-2	51	(810) りんどうF1優良個体の大量増殖技術開発	H14	H18	応用生物学	継	県単研究	103	
				52	(814) えぞりんどうの組織培養における維持、増殖システムの 確立	H14	H18	応用生物学	継	県単研究	104	
			I-2-2-2	53	(813) スターチスの低コスト培養システムの確立	H14	H16	応用生物学	継	県単研究	105	
			I-3-1-1	54	(811) りんどうの突然変異体の作出法	H14	H18	応用生物学	継	県単研究	106	
				55	(H15-08) りんご有望台木の再分化技術	H15	H17	応用生物学	新	県単研究	107	
			I-3-2-3	56	(818) 各種病原の検出・診断技術	H14	H16	応用生物学	継	県単研究	108	
			I-3-2-4	57	(293) 小ぎくのウィルスフリー化技術の確立	H12	H16	応用生物学	継	県単研究	109	
				58	(808) りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立	H14	H16	応用生物学	継	県単研究	110	
				59	(815) りんごのウィルスフリー化技術の確立	H14	H16	応用生物学	継	県単研究	111	
			繰上	I-1-2-1	60	(801) 遺伝子導入稲の耐病性評価	H14	H15	応用生物学	終(繰上)	県単研究	112
					61	(809) 耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価	H14	H15	応用生物学	終(繰上)	県単研究	113
生産工学	継	A-3-1-1	62	(H15-05) ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証 (1000) ロングマット水耕苗の低コスト効率的育苗・移植技術 の開発	H15	H17	生産工学	新	-	114		
				"	H15	H17	生産工学	新	県単研究	115		
				"	H15	H17	土壌作物栄養	新	県単研究	116		
				(2000) ロングマット水耕苗移植栽培技術の導入実証	H15	H17	農業経営	新	県単研究	117		
				"	H15	H17	生産工学	新	県単研究	118		
			B-4-2-1	63	(739) 寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽 培技術の開発	H13	H16	生産工学	継	-		
					(1000) 麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策	H13	H16	農業経営	継	-		
					(1100) 麦・大豆立毛間播種栽培の定着条件の解明	H13	H16	農業経営	継	国庫助成	119	
					(2000) 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発	H13	H16	生産工学	継	-		
					(2100) 立毛間播種に適應した麦・大豆栽培技術の確立	H13	H16	生産工学	継	-		
					(2110) 県央・県南地域	H13	H16	生産工学	継	国庫助成	120	
					(2120) 県北地域	H13	H16	やませ利用	継	国庫助成	121	
					(2200) 麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術 の確立	H13	H16	野菜畑作	継	-		
					(2210) 県央・県南地域	H13	H16	野菜畑作	継	国庫助成	122	
					(2220) 県北地域	H13	H16	営農技術	継	国庫助成	123	
				(3000) 麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	H13	H16	生産工学	継	国庫助成	124		
				(3100) 麦・大豆立毛間播種に対応した肥培管理技術の確立	H13	H16	土壌作物栄養	継	国庫助成	125		
			P-1-1-1	64	(H15-07) 農作業事故防止のための基盤整備手法	H15	H16	生産工学	新	県単研究	126	
			P-2-2-1	65	(895) 輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい 及び排水技術の確立	H14	H16	生産工学	継	令達	127	
			P-3-1-1	66	(800) 環境に配慮した農村整備手法の確立	H14	H16	生産工学	継	県単研究	128	
67	(852) 寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑 化工法の実証	H14		H16	生産工学	継	令達	129				
P-2-1-1	68	(H15-51) 水田除草機性能確認試験	H15	H16	生産工学	継	民間委託	130				
終	P-2-1-2	69	(462) 重機の走行がほ場整備後の土壌の均一性に与える影響の 解明	H11	H15	生産工学	終	令達	131			
		70	(732) 傾斜地畑の土壌流亡防止工法の確立	H13	H15	生産工学	終	令達	132			
繰上	0-2-1-2	71	(817) 水稲育苗ハウスを利用した野菜・花きの簡易な水耕栽培 技術の確立	H14	H15	生産工学	終(繰上)	県単研究	133			
果樹	継	C-1-1-1	72	(839) りんご新しい性台木「青台3」の特性解明	H14	H18	果樹	継	県単研究	134		
			C-1-1-3	73	(708) 山ぶどう結実安定技術の確立	H13	H17	果樹	継	県単研究	135	
				74	(709) ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討	H13	H17	果樹	継	県単研究	136	
			C-1-2-1	75	(829) キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成 及び選抜	H14	H18	果樹	継	-		
					(1000) 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験	H14	H18	果樹	継	-		
					(1100) 第9回系統適応性検定試験	H14	H15	果樹	終	国庫委託	137	
	(1200) 第10回系統適応性検定試験	H14	H18	果樹	継	国庫委託	138					

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No		
果樹				(1300)第11回系統適応性検定試験	H16	H18	果 樹	未 継	令 達	139		
				(2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜 (生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)	H14	H18	果 樹	継	令 達	140		
				(3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	H14	H18	果 樹	継	令 達	141		
			76	(850)果樹に対する植調剤等の利用法	H14	H18	果 樹	継	-	-	-	-
			(1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	H14	H18	果 樹	継	民間委託	142			
			(2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	H14	H18	果 樹	継	民間委託	143			
			77	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	H14	H18	果 樹	継	令 達	144		
			C-2-1-1	78	(128)需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-	-
			(1000)食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(1100)食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(1110)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(1111)樹勢要因と果実品質の関係解明	H12	H13	果 樹	過	-	-			
			(1112)食味本位リンゴの適正着果量の解明	H12	H13	果 樹	過	-	-			
			(1113)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立	H13	H16	果 樹	継	国庫助成	145			
			(1120)良食味・均質化のための樹体構成法	H12	H13	果 樹	過	-	-			
			(1121)樹体内果実品質の分布把握	H12	H13	果 樹	過	-	-			
			(1122)受光条件と果実品質の関係解明	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(1123)葉面積指数と果実品質の関係解明	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(1124)適正な側枝配置法の解明	H14	H16	果 樹	継	国庫助成	146			
			(1130)各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(1131)光センサーによる内部品質評価法の検討	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	147			
			(1132)各種資材を利用した内部品質向上・均質化技術の検討	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	148			
			(2000)食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2100)新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の確立	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2110)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」などへの新摘花・摘果剤利用技術の確立	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2111)新規摘花剤の効果確認	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2112)「さんさ」「ふじ」などへの品種適応性の検討	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2113)摘果剤の効果安定法	H12	H14	果 樹	過	-	-			
			(2114)体系処理法の開発と省力効果の確認	H13	H14	果 樹	過	-	-			
			(2200)新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理の大幅削減技術の開発	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(2210)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」など新摘葉剤利用技術の確立	H12	H16	果 樹	継	-	-			
			(2211)摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	149			
			(2212)摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	150			
			(2213)着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	151			
			(2220)着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立	H12	H16	果 樹	継	国庫助成	152			
			(3000)食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立	H12	H16	保鮮流通技術	継	-	-			
			(3100)食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立	H12	H16	保鮮流通技術	継	国庫助成	153			
			(4000)食味本位のリンゴ新材の省力的生産体系の実証と消費流通評価	H14	H16	果 樹	継	-	-			
			(4100)省力・均質化生産体系の実証	H14	H16	果 樹	継	-	-			
			(4110)高品質均質化技術の実証	H14	H16	果 樹	継	国庫助成	154			
			(4200)食味本位リンゴの消費流通調査	H14	H16	農業経営	継	国庫助成	155			
			(5000)食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策の解明	H12	H14	農業経営	過	-	-			
			(5100)食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策	H12	H14	農業経営	過	-	-			
			(5110)現行光センサー選果機の活用上の問題点の把握と改善方策	H12	H14	農業経営	過	-	-			
			(5120)食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策	H12	H14	農業経営	過	-	-			
			79	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	H14	H18	果 樹	継	-	-		
			(1000)りんごの生育・生態の把握	H14	H18	果 樹	継	県単研究	156			
(2000)ぶどうの生育・生態の把握	H14	H18	果 樹	継	県単研究	157						

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No	
果樹			80	(3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	H14	H18	果 樹	継	県単研究	158	
				(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立	H15	H19	果 樹	新	-		
			C-3-2-1	81	(1000)「岩手6号」の安定生産技術の確立	H15	H19	果 樹	新	県単研究	159
					(131)果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発	H9	H16	果 樹	継	-	
					(1000)りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発	H9	H16	果 樹	継	-	
					(1100)摘花・摘果の省力技術の開発	H9	H16	果 樹	継	国庫委託	160
					(1200)摘葉管理の省力技術の開発	H9	H16	果 樹	継	国庫委託	161
					(1300)密植立木仕立てでの省力的剪定技術の開発	H9	H16	果 樹	継	国庫委託	162
					(2000)りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト・超省力・高品質生産技術の解明	H9	H13	果 樹	過	-	
					(2100)スパタイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握	H9	H13	果 樹	過	-	
			C-4-1-1	82	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	H14	H18	果 樹	継	-	
					(1000)国育成系統適応性(盛岡58~65号)	H14	H18	果 樹	継	令達	163
					(2000)国内外導入品種の選抜	H14	H18	果 樹	継	令達	164
			C-4-3-1	83	(3000)いわて特産中晩生種の交配育成	H14	H18	果 樹	継	令達	165
					(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発	H14	H18	果 樹	継	-	
			C-4-4-1	84	(1000)国内外導入品種の選抜	H14	H18	果 樹	継	令達	166
					(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜	H14	H18	果 樹	継	-	
			終	C-1-1-1	85	(1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	H14	H18	果 樹	継	令達
(2000)ブルーベリーの優良品種の選抜	H14	H18				果 樹	継	県単研究	168		
(121)21世紀のリンゴわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発	H11	H15				果 樹	終	-			
(1000)JM台木の現地適応性の解明	H11	H15				果 樹	終	-			
(1100)JM7台木利用樹の現地適応性	H11	H15				果 樹	終	国庫助成	169		
(2000)JM台木の簡易・安定・短期生産法の確立	H11	H13				果 樹	過	-			
(2100)台木の簡易増殖法	H11	H13				果 樹	過	-			
(2200)苗木の短期生産法	H11	H13				果 樹	過	-			
(3000)優良苗木の短期生産技術の確立	H12	H15				果 樹	終	-			
(3100)JM台木を用いた苗木養成苗木の短期生産法	H12	H15				果 樹	終	国庫助成	170		
(4000)JM台木と主要品種・県奨励品種との親和性の解明	H11	H15				果 樹	終	-			
(4100)JM台木と「ふじ」「きおう」等の親和性	H11	H15				果 樹	終	国庫助成	171		
(5000)JM台木利用・栽植様式による低樹高栽培技術の確立	H11	H15	果 樹	終	-						
(5100)台木の利用法	H11	H15	果 樹	終	-						
(5110)地上部台木長の検討	H11	H15	果 樹	終	国庫助成	172					
(5120)JM5台の中間台利用法の検討	H11	H15	果 樹	終	国庫助成	173					
(5200)JM7台木の栽植様式の検討	H11	H15	果 樹	終	国庫助成	174					
繰上	C-1-1-1	86	(H15-09)おうとう新台木の検索と実用化	H15	H15	果 樹	県単研究	175			
野菜畑作	継	B-1-1-1	87	(875)大豆の奨励品種決定調査	H14	H18	野菜畑作	継	-		
				(1000)基本調査	H14	H18	野菜畑作	継	県単採種	176	
				(2000)現地調査	H14	H18	野菜畑作	継	県単採種	177	
		B-1-1-2	88	88	(888)麦類の奨励品種決定調査	H14	H18	野菜畑作	継	-	
					(1000)県南・県央地域	H14	H18	野菜畑作	継	県単採種	179
					(2000)県北地域	H14	H18	野菜畑作	継	県単採種	180
		B-1-2-1	89	89	(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術	H14	H16	野菜畑作	継	-	
					(1000)県央・県南地域	H14	H16	野菜畑作	継	国庫委託	181
		B-3-2-1	90	90	(2000)研北地域	H14	H16	野菜畑作	継	国庫委託	182
					(819)あずき系統適応性検定試験	H14	H18	野菜畑作	継	国庫委託	183
					(835)ばれいしょ系統適応性検定試験	H14	H18	野菜畑作	継	国庫委託	184
					(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験	H14	H18	野菜畑作	継	国庫委託	185
					(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	H14	H18	野菜畑作	継	国庫委託	186
		B-4-2-1	94	94	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	H14	H18	野菜畑作	継	-	
(1000)麦類の生育相と気象反応の解明	H14				H18	野菜畑作	継	-			
(1100)県央・県南地域	H14				H18	野菜畑作	継	県単研究	187		
(1200)県北地域	H14				H18	野菜畑作	継	県単研究	188		
(2000)大豆の生育相と気象反応の解明	H14				H18	野菜畑作	継	-			
(2100)県央・県南地域	H14				H18	野菜畑作	継	県単研究	189		
(2200)県北地域	H14	H18	野菜畑作	継	県単研究	190					
B-5-0-0	95	95	(H15-39)麦後大豆の高品質栽培技術の確立	H15	H17	野菜畑作	新	国庫委託	191		
	96	96	(891)畑作物原々種・原種生産	S29	H17	野菜畑作	継	県単採種	192		

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No					
野菜畑作	D-1-1-2		97	(849)果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培 体系の確立	H14	H16	野菜畑作	継	-						
				(1000)夏秋キュウリの長期安定生産技術の確立	H14	H16	野菜畑作	継	県単研究	193					
				(2000)トマト簡易雨よけ栽培の安定化技術の確立	H14	H16	野菜畑作	継	県単研究	194					
			98	(H15-10)果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立	H15	H17	野菜畑作	新	-						
				(1000)トマトの低コスト灌水施肥栽培技術の確立	H15	H15	野菜畑作	新	-						
				(1100)栽培法の確立	H15	H15	野菜畑作	新	県単研究	195					
				(1200)栄養診断による施肥指標の策定	H15	H15	野菜畑作	新	県単研究	196					
				(2000)キュウリの点滴灌水施肥栽培技術の確立	H15	H17	野菜畑作	新	-						
				(2100)栽培法の確立	H15	H17	野菜畑作	新	県単研究	197					
				(2200)栄養診断による施肥指標の策定	H15	H17	野菜畑作	新	県単研究	198					
	D-1-1-3			99	(816)ネギの産地力強化のための低コスト・長期安定供給技術 の確立	H14	H16	野菜畑作	継	-					
					(1000)ネギの7月穫り作型開発と作型別適品種選定	H14	H15	野菜畑作	終	令達	199				
					(2000)ネギの省力機械化体系確立実証	H14	H15	生産工学	終	令達	200				
					(3000)ネギの高鮮度流通技術の確立	H14	H16	保鮮流通技術	継	令達	201				
					(4000)県中南部におけるねぎ主要害虫の防除体系	H14	H14	病理昆虫	過	-					
					(5000)ネギ産地における流通改善方策の解明	H14	H16	農業経営	継	-					
					(5100)流通コストの改善可能性と条件解明	H14	H16	農業経営	継	令達	202				
					(6000)ネギの低コスト・安定供給技術の実証	H15	H16	野菜畑作	新	令達	203				
					D-1-2-3			100	(H15-41)除草剤等実用化試験	H15	H16	野菜畑作	新	民間委託	204
					D-2-1-1			101	(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立	H14	H16	野菜畑作	継	-	
(1000)キュウリ優良品種の選定と栽培法	H14	H16	野菜畑作	継					県単研究	205					
(2000)トマト優良品種の選定と栽培法	H14	H15	野菜畑作	継					県単研究	206					
(3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法	H14	H17	野菜畑作	継					県単研究	207					
D-2-1-1			102	(H15-40)東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開 発	H15	H19	野菜畑作	新	-						
				(1000)短日処理による10～11月どり超促成栽培技術の開 発	H15	H19	野菜畑作	新	国庫委託	208					
				(2000)越年株利用による7～8月どり技術の開発	H15	H19	野菜畑作	新	国庫委託	209					
D-4-0-0			103	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	H8	H18	野菜畑作	継	令達	211					
終	B-1-1-2		104	(84)ハトムギ優良品種の選定	H11	H15	野菜畑作	終	令達	212					
				B-2-1-2		105	(96)不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安 定栽培技術	H11	H15	野菜畑作	終	-			
	(1000)大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策	H11	H15				農業経営	終	-						
	(1200)水田利用作付体系・機械化栽培定着のための生産組 織化の究明	H12	H13				農業経営	過	-						
	(1400)不耕起土壌の理化学性等の把握	H11	H15				野菜畑作	終	国庫助成	213					
	(2000)不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術	H11	H15				野菜畑作	終	-						
	(2200)不耕起・無中耕・無培土栽培に対応した土壌管理技 術の確立	H12	H15				野菜畑作	終	国庫助成	214					
	(2400)大豆作を中心とした水田利用作付体系の実証	H11	H15				野菜畑作	終	国庫助成	215					
	(3000)大豆の高品質安定生産技術確立	H11	H14				生産工学	過	-						
	(3100)大豆の高品質安定生産技術確立	H11	H14				生産工学	過	-						
	(3110)不耕起播種機の能率・精度の向上	H11	H14				生産工学	過	-						
	(4000)高品質・超省力栽培体系の現地実証	H12	H15	農業経営	終	-									
	(4100)組立技術の経営経済評価	H12	H15	農業経営	終	国庫助成	216								
	(4200)地域的波及効果の確認	H14	H15	農業経営	終	国庫助成	217								
	B-2-1-3			106	(97)小麦の冬期播種栽培技術の確立	H13	H15	野菜畑作	終	県単研究	218				
	D-1-1-3			107	(738)雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	H13	H15	野菜畑作	終	-					
					(1000)省力技術の実証	H13	H15	野菜畑作	終	県単研究	219				
					(2000)安定多収技術の実証	H13	H15	野菜畑作	終	県単研究	220				
	D-1-1-4			108	(157)園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術	H12	H15	野菜畑作	終	-					
					(1000)いちごのベンチアップ栽培の確立	H12	H15	南部園芸	終	-					
(1200)培養液濃度の検討					H12	H15	南部園芸	終	県単研究	221					
(1300)適品種の検討					H12	H15	南部園芸	終	県単研究	222					
(1400)栽培ベッドの保温					H14	H15	南部園芸	終	県単研究	223					
(1500)培養土の検討					H14	H15	南部園芸	終	県単研究	224					
(2000)トマトの少量土壌培地耕栽培技術の確立					H12	H15	南部園芸	終	-						
(2100)適品種の検討					H12	H14	南部園芸	過	-						
(2200)各種培地における栽培管理方法の検討					H12	H14	南部園芸	過	-						
(2300)トマト少量土壌培地耕栽培の経済性評価					H15	H15	南部園芸	終・新	県単研究	225					

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No						
野菜畑作				(3000)地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証	H12	H14	野菜畑作	過	-							
				(4000)点滴かん水による養・水分供給技術の確立	H12	H14	土壌作物栄養 保鮮流通技術	過	-							
				(5000)養液土耕栽培での高品質生産条件の解明	H11	H14		過	-							
				D-2-1-1	109	(744)水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証	H13	H15	野菜畑作	終	-					
				(1000)優良種苗決定のための現地調査	H13	H15	野菜畑作	終	県単研究	226						
					(2000)運作障害対策を中心とした水田活用体系の実証	H13	H15	野菜畑作	終	県単研究	227					
					(3000)優良系統の培養苗利用による栽培実証	H13	H15	応用生物学	終	県単研究	228					
					D-2-1-2	110	(165)野菜の優良栄養繁殖系品種の育成	H10	H15	野菜畑作	終	-				
					(1000)サトイモの優良系統の選抜	H10	H15	野菜畑作	終	令達	229					
					繰上	B-4-1-2	111	(H15-42)水田大豆における高品質安定化に向けた施肥技術の確立	H15	H15	野菜畑作	繰上	民間委託	230		
				D-1-1-2	112	(853)寒冷地における夏秋イチゴの低コスト生産・安定供給技術の確立	H14	H15	野菜畑作	繰上	-					
				(1000)県央地域	H14	H15	野菜畑作	繰上	県単研究	231						
				(2000)沿岸南部地域	H14	H15	南部園芸	繰上	県単研究	232						
				D-1-2-3	113	(871)新肥料の肥効試験	H14	H15	野菜畑作	繰上	民間委託	233				
花き	継			E-1-1-2	114	(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価	H14	H17	花き	継	-					
				(1000)わい性「ポラーノホワイト」の生育特性の解明	H14	H17	花き	継	県単研究	234						
				E-1-2-1	115	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立	H14	H18	花き	継	-					
				(1000)種子による親株維持技術の確立	H14	H18	花き	継	県単研究	235						
				(2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定	H14	H18	花き	継	県単研究	236						
				E-1-3-1	116	(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立	H14	H18	花き	継	県単研究	237				
				E-1-4-1	117	(832)ニュータイプ小ぎくの品種育成	H14	H20	花き	継	令達	238				
				E-2-1-4	118	(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立	H15	H17	花き	新	-					
				(1000)鉢物りんどう「いわて乙女」の高品質安定生産技術の確立	H15	H17	花き	新	県単研究	239						
				E-3-1-1	119	(844)りんどう栄養系品種の栽培技術の確立	H14	H16	花き	継	県単研究	240				
					E-3-1-4	120	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明	H14	H18	花き	継	-				
					(1000)発生実態と栽培条件による原因解明	H14	H18	花き	継	県単研究	241					
					(2000)発生圃場の土壌及びりんどう養分吸収特性の解明	H14	H16	土壌作物栄養	継	県単研究	242					
					(3000)こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索	H14	H16	病理昆虫	継	県単研究	243					
					(4000)生物学的手法によるりんどうこぶ症の原因究明	H16	H17	応用生物学								
	E-3-2-1	121	(843)りんどうの生育・生態調査	H14	H18	花き	継	県単研究	244							
					E-3-2-3	122	(865)小ぎくの作期拡大技術の確立	H14	H18	花き	継	県単研究	245			
					123	(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立	H15	H19	花き	新	-					
	繰上				りんどうコンテナ栽培技術の確立											
					(1000)コンテナ栽培における管理技術の確立	H15	H19	花き	新	県単研究	246					
(2000)コンテナ栽培の培地組成の解明					H15	H19	土壌作物栄養	新	県単研究	247						
E-6-0-0					124	(214)りんどう優良系統の維持増殖	S49	H17	花き	継	令達	248				
								E-6-0-0	125	(H15-49)りんどう生産拡大緊急対策事業	H15	H19	花き	新	-	
								(1000) (1)親株の安定生産技術	H15	H19	花き	新	令達	249		
								(2000) (2)組織培養による親株の安定生産技術	H15	H19	応用生物学	新	令達	250		
(3000) (3)りんどう除草剤実用化試験					H16	H17	花き	未	-							
E-1-2-2					126	(191)りんどうの品種育成	S49	H20	花き	継	令達	251				
終								E-1-3-1	127	(192)スターチス類の品種育成	H11	H15	花き	終	令達	252
	E-1-5-1	128	(195)ゆりの品種育成	H5				H15	花き	終	令達	253				
	E-5-1-1	129	(746)沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	H13				H15	花き	終	県単研究	254				
繰上				E-2-1-3	130	(196)寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	H12	H15	花き	繰上	-					
				(1000)枝物花木の寒冷地向け適品目の選定及び栽培技術の確立	H12	H15	花き	繰上	-							
				(1100)品目選定と栽培特性	H12	H15	花き	繰上	国庫助成	255						
				(1200)効率的増殖法及び育苗技術の確立	H12	H15	花き	繰上	国庫助成	256						
				(1300)栽植方式及び早期株養成技術の解明	H12	H15	花き	繰上	-							
				(1310)栽植様式と生育反応 根域制限と生育反応 株養成技術の開発	H12	H15	花き	繰上	国庫助成	257						
				(1320)花芽着生技術の開発	H13	H15	花き	終	国庫助成	258						
				(1400)整枝及び仕立て法の確立	H13	H15	花き	終	-							
(1410)越冬前の整枝法が次年度の生育に及ぼす影響	H13	H15	花き	終	国庫助成	259										
(1500)休眠特性の解明と休眠打破法、促成栽培技術の確立	H13	H15	花き	終	-											

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No											
花き				(1510) 切り枝類の休眠特性解明 休眠打破方法の開発	H13	H15	花き	終	国庫助成	260											
				(2000) 切り枝の品質保持技術の確立	H13	H15	保鮮流通技術	終(繰上)	-												
				(2100) 鮮度保持剤等の利用による品質保持技術の確立	H13	H15	保鮮流通技術	終(繰上)	国庫助成	261											
				(2200) 促成時の水揚げ改善技術の確立	H14	H15	保鮮流通技術	終	国庫助成	262											
南部園芸	継			(845) りんどう切り花用品種の鉢物化技術の確立	H14	H15	花き	終(繰上)	県単研究	263											
				(878) 短日処理によるいちご促成栽培適応品種の選抜	H14	H16	南部園芸	継	県単研究	264											
				(820) アネモネの年内穫り作型における高品質栽培法の確立	H14	H16	南部園芸	継	県単研究	265											
				(822) アレンジメントアスターの高品質安定生産の確立	H14	H16	南部園芸	継	県単研究	266											
	終	継			(710) 太陽光発電を利用した栽培技術の確立	H13	H17	南部園芸	継	-											
					(1000) 温度管理等による花きの周年栽培体系の確立	H13	H17	南部園芸	継	県単研究	267										
		終				(747) いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化	H13	H15	南部園芸	終	県単研究	268									
						(711) いちご低温カット栽培における高設栽培技術の確立	H13	H15	南部園芸	終	県単研究	269									
						(156) 大規模野菜経営に対応した新作型栽培技術の開発				(1000) 夏秋キュウリの省力型品種の選抜	H9	H15	南部園芸	終	-						
										(2000) 雨よけトマトの省力型品種の選抜	H9	H13	野菜畑作	過	-						
										(3000) ビーマンの省力型品種の選抜	H9	H13	野菜畑作	過	-						
										(4000) 夏秋きゅうり大規模野菜生産技術の確立	H12	H15	南部園芸	終	-						
						(4100) 急性萎凋症状の耕種の発生要因の解明	H12	H15	南部園芸	終	県単研究	270									
						(712) トマト養液栽培による周年栽培技術の確立・実証	H13	H15	南部園芸	終	県単研究	271									
						(748) 東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証	H13	H15	南部園芸	終	-										
(4000) トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証・確立	H13	H15	南部園芸	終	県単研究	272															
L-1-2-1				(868) 新肥料の肥効検定他																	
											(1000) 果菜類に対する肥効確認	H13	H15	南部園芸	終	-					
											(1100) 微量要素入り肥料が生育及び品質等に及ぼす効果確認	H13	H14	南部園芸	終	-					
											(1200) いちごの育苗培養土としての適応性	H15	H15	南部園芸	終・新	民間委託	273				
											(1300) 環境保全型農業として、育苗ポット内全量施肥法の確立	H15	H15	南部園芸	終・新	民間委託	274				
(2000) 花きに対する肥効確認	H13	H15	南部園芸	終	-																
(2100) 微量要素入りトルコギキョウ肥料の肥効確認	H13	H15	南部園芸	終	民間委託	275															
環境保全	継			(H15-19) 畑作地帯における硝酸性窒素等の環境動態解明と負荷軽減技術の評価																	
											(1000) 硝酸性窒素等の動態解明手法の確立	H15	H17	環境保全	新	令達	276				
				(2000) 硝酸性窒素等の負荷軽減技術の評価	H15	H19	環境保全	新	令達	277											
				(H15-22) 水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明																	
															(H15-20) 減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発	H15	H16	環境保全	新	国庫委託	278
				//																	
															(H15-20) 減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発	H15	H16	環境保全	新	県単研究	279
				K-3-1-2				(522) 家畜排泄物等の有機物資源を活用した特別栽培農産物生産技術体系の確立													
															(1000) 農業分野における窒素収支の推定と解析	H14	H14	環境保全	過	-	
															(2000) 特別栽培農産物栽培管理方式の策定	H14	H16	環境保全	継	県単研究	281
															(3000) 有機農産物の生産条件の解明	H14	H15	環境保全	終	県単研究	282
															(4000) 岩手県内生産主要堆肥の成分特性にもとづく化学肥料代替技術の確立	H14	H16	土壌作物栄養	継	令達	283
															(5000) マニユアスプレッター利用による地域内有機物の急速堆肥化技術	H14	H15	土壌作物栄養	終	県単研究	284
															(6000) 県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立	H14	H18	営農技術	継	県単研究	285
				K-3-2-3				(872) 水田の機能を活用した生物多様性保全技術の確立													
(1000) 水生生物を指標とした水田環境モニタリング	H14	H16	環境保全												継	県単研究	286				
L-2-1-3				(H15-21) 県産農産物のカドミウム濃度の実態解明と吸収抑制対策																	
											(1000) 水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立	H15	H16	環境保全	新	国庫助成	287				
											(2000) 野菜類のカドミウム吸収特性の解明	H15	H17	環境保全	新	国庫委託	288				
U-1-2-3				(H15-48) 酸性電解水による野菜の病害に対する抑制効果の実証	H15	H16	環境保全	新	国庫委託	289											
X-1-1-1				(885) 農業気象情報の管理と活用技術の開発																	
											(1000) 農業気象観測及び微気象の降霜、地温等の推測手法の開発	H14	H16	環境保全	継	-					
終				(315) 農業水質影響調査																	
											(1000) 水質影響低減技術の開発	H10	H15	環境保全	終	-					
											(1100) いもち病防除剤の施用法と水系での残留	H10	H13	環境保全	過	-					
											(1200) 種子消毒廃液処理対策技術の確立	H10	H14	環境保全	過	-					
											(2000) 育苗箱施肥による水田生態系への影響	H13	H15	環境保全	終	国庫助成	291				
U-1-2-2				(714) キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培技術	H13	H15	環境保全	終	令達	292											

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No	
環境保全		U-1-3-2	152	(523) 水稲における環境保全型農業の総合組立	H13	H15	環境保全	終	-		
				(2000) 水稲の減農薬栽培技術の確立	H13	H15	環境保全	終	-		
				(2100) 育苗期における減農薬体系の組立	H13	H15	環境保全	終	国庫助成	293	
				(2200) 本田における減農薬栽培の組立	H13	H15	環境保全	終	国庫助成	294	
土壌作物	継	L-2-2-1	153	(862) 作付け体系及び土壌管理と土壌生態系の関係の解明	H14	H15	環境保全	継	県単研究	295	
		A-4-1-3	154	(H15-13) 水田における要素反応試験	H15	H19	土壌作物栄養	新	県単研究	296	
		C-2-1-2	155	(H15-14) 画像解析によるりんごの生育栄養診断基準の策定	H15	H16	土壌作物栄養	新	国庫助成	297	
		E-3-1-1	156	(H15-15) りんごの養分吸収特性の解明	H15	H17	土壌作物栄養	新	国庫助成	298	
		L-1-1-3	157	(856) 県内主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立	H14	H16	土壌作物栄養	継	-		
				(1000) 葉菜類の内部品質実態調査	H14	H15	土壌作物栄養	終	県単研究	299	
				(2000) キャベツの栄養成分の簡易品質評価法の開発	H15	H16	保鮮流通技術	新	国庫助成	300	
				(3000) キャベツの栄養成分変動要因の解明	H15	H16	保鮮流通技術	新	県単研究	301	
				(4000) 土壌管理(有機物・塩基バランス制御)によるホウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化	H14	H16	土壌作物栄養	継	国庫委託	302	
		(5000) 施設栽培における有機物施用基準の策定	H15	H16	土壌作物栄養	新	国庫助成	303			
		L-2-1-0	158	(H15-47) スキャナー利用による土壌全炭素・全窒素の簡易推定法の確立	H15	H16	土壌作物栄養	新	令達	304	
		L-3-2-2	159	(H15-23) 土壌機能実態モニタリング調査	H15	H19	土壌作物栄養	新	国庫助成	305	
				(H15-24) 環境保全型有機質資源連用効果調査	H15	H19	土壌作物栄養	新	-		
				(1000) 水田における有機質資源連用効果	H15	H19	土壌作物栄養	新	国庫助成	306	
				(2000) 畑地における有機質資源連用効果	H15	H19	土壌作物栄養	新	国庫助成	307	
(3000) 県北地域における畜産由来有機質資源連用効果	H15			H19	営農技術	新	国庫助成	308			
(342) 野菜、花き、畑作物の生育予測、栄養診断技術の確立	H11			H15	土壌作物栄養	終	-				
終	L-1-1-2	161	(1000) 野菜・花きの栄養診断手法の確立	H11	H15	土壌作物栄養	終	県単研究	309		
			(345) 新肥料の実用化	(1000) 【業務分担】	"	H12	H15	土壌作物栄養	終	-	
					"	H12	H15	生産工学	終	民間委託	310
					"	H12	H15	保鮮流通技術	終	民間委託	311
					"	H12	H15	産地育成	終	民間委託	312
					"	H12	H15	やませ利用	終	民間委託	313
			(2000) 転作麦専用肥料の肥効	H13	H15	土壌作物栄養	終	民間委託	314		
			(3000) プール育苗における緩効行性肥料が苗の生育に及ぼす効果	H14	H15	土壌作物栄養	終	民間委託	315		
			(4000) 集落排水処理施設で発生する汚泥を有機性資源として農地還元するための品質確認	H14	H15	土壌作物栄養	終	民間委託	316		
			(5000) 寒冷地水田での肥効調節型肥料を用いた春施肥の実用化	H13	H14	営農技術	過	-			
			(6000) 寒冷地水田での肥効調節型肥料を用いた秋施肥の実用化	H13	H15	営農技術	終	民間委託	317		
			(7000) 雨よけぼつれんそうにおける肥効	H13	H15	営農技術	終	民間委託	318		
			(8000) 水田土壌における可給態ケイ酸評価法の確立試験	H13	H15	営農技術	終	民間委託	319		
(9000) 水田における鶏糞の安全利用技術の確立	H13	H14	営農技術	過	民間委託	320					
L-2-3-1	163	(873) 水田蓄積養分利用による減肥技術	H14	H15	土壌作物栄養	終	-				
(1000) 乾土効果による土壌窒素無機化量の推定	H14	H15	土壌作物栄養	終	国庫助成	321					
(2000) 土壌の可給態ケイ酸の評価法の適心性検討	H14	H15	土壌作物栄養	終	国庫助成	322					
保鮮流通技術	継	B-1-1-2	164	(H15-17) 雑穀系統の機能性・食味関連形質の評価	H15	H16	保鮮流通技術	継	県単研究	323	
		B-3-2-3	165	(H15-16) 県産小麦の地域別製パン適性の評価手法確立	H15	H16	保鮮流通技術	新	令達	324	
		C-2-3-2	166	(H15-43) 果実を丸ごと使った健康志向食品の開発	H15	H16	保鮮流通技術	新	令達	325	
		V-2-1-2	167	(874) 西洋なし早期出荷のための予冷・追熟技術の開発	H14	H16	保鮮流通技術	継	県単研究	326	
		V-2-3-1	168	(883) 通いコンテナ利用における高鮮度保持技術の確立	H14	H16	保鮮流通技術	継	県単研究	327	
		W-1-2-2	169	(881) 地域特産物加工品による沢ごとオリジナル商品の開発	H14	H16	保鮮流通技術	継	-		
				(1000) 「小枝柿」の脱渋技術の確立	H14	H16	保鮮流通技術	継	県単研究	328	
		(2000) 特産作物ハトムギを利用した新規加工品の開発	H14	H15	保鮮流通技術	終(線上)	県単研究	329			
		W-3-0-0	170	(548) 加工工房指導業務	H9	H22	保鮮流通技術	継	県単公園	330	
		終	D-2-1-3	171	(H14-02) トマト・ピーマンの一晚予冷技術の開発	H14	H15	保鮮流通技術	終	令達	331
					(530) 各種農産物の品質評価指標の解明	(1000) 果菜類の簡易品質評価法	H11	H15	保鮮流通技術	終	-
(2000) 寒締め菜っぱの簡易品質評価法	H11					H13	保鮮流通技術	過	-		
(2000) 寒締め菜っぱの簡易品質評価法	H13					H15	保鮮流通技術	終	県単研究	332	
V-2-1-1	173	(745) 枝豆新品種の鮮度保持技術の確立	H13	H15	保鮮流通技術	終	令達	333			
線上	D-2-1-3	174	(H15-18) ヤーコンの長期貯蔵条件の解明	H15	H15	保鮮流通技術	終(線上)	令達	334		
病理昆虫	継	A-3-2-3	175	(H15-25) 斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て	H15	H16	病理昆虫	新	県単研究	335	
		B-2-2-2	176	(H15-28) 地域特産物における新防除資材の実用化	H15	H19	病理昆虫	新	-		
				(1000) ホップ灰色かび病新規防除薬剤の実用化試験	H15	H15	病理昆虫	終・新	国庫助成	336	
(2000) 根みつばの菌核病	H15	H15	病理昆虫	終	国庫助成	337					
(3000) アワのアワノメイガ	H15	H15	営農技術	終・新	国庫助成	338					

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No		
病理昆虫				(4000)ブルーベリーのショウジョウバエ類	H15	H16	病理昆虫	新	国庫助成	339		
				(5000)ヒエのアワノメイガ	H15	H15	やませ利用	終・新	国庫助成	340		
				"	H16	H16	営農技術	未	-			
				(6000)農薬残留分析(ホップ、ブルーベリー)	H15	H18	環境保全	新	国庫助成	341		
				(7000)モミジガサの菌核病	H16	H18	病理昆虫	未	-			
				(8000)水わさびのアブラムシ類	H16	H18	病理昆虫	未	-			
				(9000)なばなのネキリムシ類	H16	H17	病理昆虫	未	-			
				C-1-2-3	177	(H15-26)りんごカメムシ類の発生生態と効率的防除法の確立	H15	H17	病理昆虫	新	-	
						(1000)指標植物による被害発生予測法	H15	H17	病理昆虫	新	国庫助成	342
				E-3-1-4	178	(H15-27)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法	H15	H17	病理昆虫	新	-	
			(1000)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法	H15	H17	病理昆虫	新	県単研究	343			
	M-1-1-1	179	(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明	H9	H18	病理昆虫	継	国庫助成	344			
	M-1-2-1	180	(3)【植物防疫事業研究】	H9	H22	病理昆虫	継	国庫助成	345			
	M-3-1-1	181	(H15-29)内分泌攪乱作用が懸念される農薬を使用しない病害虫防除法の確立	H15	H19	病理昆虫	新	-				
			(1000)水稲における代替技術	H15	H15	病理昆虫	終・新	令達	346			
			(2000)りんごにおける代替技術	H16	H18	病理昆虫	未	-				
			(3000)きゅうりにおける代替技術	H15	H16	病理昆虫	新	令達	347			
			(4000)りんどうにおける代替技術	H17	H18	病理昆虫	未	-				
			(5000)内分泌攪乱作用のある農薬を使用しない病害虫防除法の実証	H16	H19	病理昆虫	未	-				
			(6000)ねぎにおける代替技術	H16	H17	病理昆虫	未	-				
	M-3-1-2	182	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成	H9	H17	病理昆虫	継	-				
			(1000)水稲種子消毒剤の大量種子消毒適用性試験	H13	H14	病理昆虫	過	-				
			(1100)テクリード水和剤	H13	H14	病理昆虫	過	-				
			(2000)県北地域	H9	H17	営農技術	継	民間委託	348			
			(3000)葉いもち防除に必要な箱施用剤の根圏成分量	H15	H16	病理昆虫	新	民間委託	349			
			(4000)本部	H9	H17	病理昆虫	継	民間委託	350			
	終	M-1-1-2	183	(731)なす科野菜における青枯病総合防除法の確立	H13	H15	病理昆虫	終	国庫助成	351		
				(733)リンゴ根頭がんしゅ病の発生生態と診断技術	H13	H15	病理昆虫	終	県単研究	352		
		M-1-1-3	185	(382)薬剤耐性菌検定	H12	H15	病理昆虫	終	-			
				(1000)イネのみ枯細菌病菌	H12	H15	病理昆虫	終	国庫助成	353		
			186	(893)薬剤抵抗性発現害虫の実態と対策	H13	H15	病理昆虫	終	-			
				(1000)りんごのハダニ類	H13	H15	病理昆虫	終	国庫助成	354		
		M-1-2-1	187	(735)リンゴ炭そ病の発生予測技術の開発	H13	H15	病理昆虫	終	国庫助成	355		
M-3-2-1		188	(715)病害虫総合防除法の開発	H13	H15	病理昆虫	終	-				
			(1000)水稲初期害虫の隔年防除法の確立	H13	H15	病理昆虫	終	国庫助成	356			
			(2000)育苗箱施薬による水田生態系への影響	H13	H15	環境保全	終	国庫助成	357			
		189	(730)きゅうりにおける総合的病害防除法の確立	H13	H15	病理昆虫	終	国庫助成	358			
		190	(741)複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証	H13	H15	病理昆虫	終	-				
			(2000)散布回数削減病害虫防除体系の実証	H13	H15	病理昆虫	終	県単研究	359			
T-2-1-2	191	(415)土着天敵群の実態解明とその利用技術	H12	H15	病理昆虫	終	-					
		(2000)ピーマン害虫に対する総合防除法の確立	H12	H15	病理昆虫	終	県単研究	360				
T-3-1-3	192	(742)有用拮抗微生物の探索と評価	H13	H15	病理昆虫	終	-					
		(2000)昆虫病原ウイルスの利用技術	H13	H15	病理昆虫	終	県単研究	361				
繰上	M-3-1-1	193	(838)りんご紫紋羽病の発生実態と新たな防除法の開発	H14	H15	病理昆虫	繰上	-				
			(1000)県内における紫紋羽病の発生実態と病菌の特性解明	H14	H15	病理昆虫	繰上	県単研究	362			
	M-3-1-2	194	(842)りんごの萎縮症状の原因解明	H14	H15	病理昆虫	繰上	県単研究	363			
家畜育種	継	G-1-1-2	195 (236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	H22	家畜育種	継	令達	364			
			196 (237)日本短角種産肉能力検定(間接法)	S48	H16	家畜育種	継	令達	365			
		G-4-1-5	197 (854)環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立	H14	H17	家畜育種	継	県単研究	366			
		J-3-1-0	198 (H15-44)日本短角種をモデルとした全個体認証システムの構築と利用技術の開発	H15	H19	家畜育種	新	国庫委託	367			
	終	G-3-2-3	199 (248)ビタミンA制限による肥育技術の確立	H10	H15	家畜育種	終	令達	368			
		G-5-1-1	200 (833)ニワトリ始原生殖細胞(PGCs)の利用に関する研究	H14	H15	家畜育種	終	県単研究	369			
		G-5-1-2	201 (720)岩手独自の交雑種鶏を活用した組み合わせ検定	H13	H15	家畜育種	終	県単研究	370			
繰上	G-2-1-1	202 (882)超早期母子分離と放牧を取り入れた黒毛和種飼養方式の確立	H14	H15	家畜育種	繰上	県単研究	371				
家畜飼養	継	F-1-1-1	203 (230)高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立	H10	H16	家畜飼養	継	県単研究	372			
		F-2-2-2	204 (H15-30)哺乳ロボットを応用した省力管理技術の確立	H15	H17	家畜飼養	新	国庫助成	373			

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No	
家畜飼養		F-1-2-1	205	(721) 発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立(旧題: 集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立)	H13	H17	家畜飼養	継	県単研究	374	
	終	F-3-2-2	206	(722) ロボット搾乳とパーラー搾乳が乳腺細胞に及ぼす影響と乳房炎発生との関係	H13	H15	家畜飼養	終	県単研究	375	
	繰上	F-1-2-2	207	(846) ロボット多回搾乳が乳用牛の繁殖機能に及ぼす影響の解明と繁殖管理技術の確立	H14	H15	家畜飼養	繰上	県単研究	376	
家畜工学	継	J-1-1-2	208	(864) 受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討	H14	H16	家畜工学	継	令達	377	
		J-1-1-3	209	(824) ウシ胚移植を活用した効率的双子生産技術の確立	H14	H16	家畜工学	継	県単研究	378	
		J-3-1-0	210	(304) 肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	H7	H16	家畜工学	継	令達	379	
	終	J-1-3-4	211	(302) 雌雄判別技術を利用した乳用牛群改良技術の確立	H11	H15	家畜工学	終	県単研究	380	
		J-2-1-0	212	(303) 核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発	H10	H15	家畜工学	終	国庫助成	381	
飼料生産	継	F-2-1-2	213	(H15-32) 通気性被覆シートによる堆肥化技術の確立	H15	H16	飼料生産	新	県単研究	382	
		F-3-1-1	214	(879) 地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立	H14	H16	飼料生産	継	-		
				(1000) 県内酪農地帯における地域資源を活用した資源循環型酪農経営の定着方策	H14	H16	農業経営	継	-		
				(1100) 主要酪農地帯における粗飼料生産給与と家畜飼養管理技術の実態把握	H14	H15	農業経営	継	国庫助成	383	
				(1200) 開発技術導入による資源循環型酪農の定着要件の解明	H16	H16	農業経営	未	-		
				(2000) 畑地における堆肥を高度に利用した一年生飼料作物の資源循環型粗飼料生産技術の開発	H14	H16	飼料生産	継	-		
				(2100) 一年生飼料作物の生育特性と生産性の解明	H14	H16	飼料生産	継	国庫助成	384	
				(2200) 一年生飼料作物の資源循環型栽培技術の確立	H15	H16	飼料生産	新	国庫助成	385	
				(2300) 一年生飼料作物と冬作物との組み合わせによる周年作付け体系技術の確立	H15	H16	飼料生産	新	国庫助成	386	
				(3000) 一年生飼料作物の給与と効率的な放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	H14	H16	家畜飼養	継	-		
				(3100) 泌乳期に対応した一年生飼料作物の給与技術	H15	H16	家畜飼養	新	国庫助成	387	
				(3200) 脂質代謝関連物質を指標とする周産期病予察技術の開発	H15	H16	家畜飼養	新	国庫助成	388	
				(3300) 生涯生産性を高める育成期集約放牧飼養管理技術の確立(旧題: 集約放牧を取り入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立)	H14	H16	家畜飼養	継	国庫助成	389	
				(3400) 時間制限放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	H16	H16	家畜飼養	未	-		
		H-1-1-1	215	(253) とうもろこし市販品種の特性比較	S54	H17	飼料生産	継	令達	390	
			216	(254) とうもろこし系統適応性検定試験	S55	H17	飼料生産	継	国庫委託	391	
		H-1-2-3	217	(726) 採草用牧草の播種基準の策定	H13	H17	飼料生産	継	県単研究	392	
		H-2-2-1	218	(892) 牧草の気象感応試験	H14	H18	飼料生産	継	県単研究	393	
		H-2-2-2	219	(H15-31) 自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立	H15	H17	飼料生産	新	-		
				(1000) 有機飼料作物生産をめざした地力評価に基づく施肥法の確立	H15	H17	飼料生産	新	県単研究	394	
				(2000) 長大型飼料作物ラップサイレージの調製・品質保持技術の確立	H15	H17	飼料生産	新	県単研究	395	
				(3000) 長大型飼料作物ラップサイレージの生産・供給システムの構築	H15	H17	農業経営	新	県単研究	396	
				(4000) 日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立	H15	H17	家畜育種	新	県単研究	397	
				(5000) 消費者に向けた安心安全な牛肉生産・流通評価基準の確立	H15	H17	家畜育種	新	県単研究	398	
		終	H-1-1-2	220	(725) ソルガム市販品種の特性比較	H13	H15	飼料生産	終	令達	399
	H-2-2-1		221	(861) 細断型ロールベアラによる飼料作物の収穫調製技術	H14	H15	飼料生産	終	国庫委託	400	
	H-2-2-2		222	(743) ソルガムラップサイレージ調製技術	H13	H15	飼料生産	終	令達	401	
	H-2-4-0		223	(724) 被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立	H13	H15	飼料生産	終	県単研究	402	
外山畜産	継	G-2-1-3	224	(H15-45) 日本短角種DM牛の特性解明と系統造成	H15	H19	外山畜産	新	国庫委託	403	
	終	G-2-1-2	225	(242) 北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立	H11	H15	外山畜産	終	-		
			(1000) 黒毛和種肥育素牛生産における放牧利用の展開方向の解明	H11	H13	農業経営	過	-			
			(1200) 遠野地域の公共牧場における総合的放牧利用の展開方向の解明	H11	H13	農業経営	過	-			

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構 想	連 番	(課題番号) 課題名	開 始 年	終 了 年	担 当 研 究 室	実 施 区 分	予 算 区 分	実 施 No	
外山畜産				(2000)集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発	H11	H15	外山畜産	終	-		
				(2100)草種構成と緩効性肥料の組み合わせによる草地生産平準化技術	H11	H15	外山畜産	終	国庫助成	404	
				(2200)適正輪換放牧方式による発育向上技術	H11	H15	外山畜産	終	国庫助成	405	
				(2300)放牧草の栄養特性に対応した補助飼料給与技術	H11	H15	外山畜産	終	国庫助成	406	
				(2400)放牧育成肥育素牛の肥育特性の解明	H12	H15	家畜育種	終	国庫助成	407	
				(3000)北上山地における黒毛和種肥育素牛育成技術の現地実証	H14	H15	外山畜産	終	-		
				(3100)黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術の現地実証と経営経済評価	H14	H15	外山畜産	終	国庫助成	408	
	H-4-2-1		226	(262)広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保全機能の解明	H11	H15	外山畜産	終	県単研究	410	
種山畜産	継	G-1-1-1	227	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	H17	種山畜産	継	令達	411	
			228	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	H1	H17	種山畜産	継	令達	412	
			G-1-1-4	229	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	H14	H18	種山畜産	継	県単研究	413
			G-1-2-3	230	(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出	H14	H18	種山畜産	継	県単研究	414
営農技術	継	K-2-2-1	231	(847)奥中山地域における液状コンポスト調整利用システムの確立	H14	H16	営農技術	継	-		
			(1000)乳牛ふん尿の液状コンポスト好氣的調整システムの確立	H14	H15	飼料生産	終	県単研究	415		
			(2000)草地や飼料作物を対象とした液状コンポスト利用技術の確立	H14	H16	営農技術	継	県単研究	416		
		0-2-1-2		232	(836)ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定	H14	H17	営農技術	継	-	
	(1000)機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明	H14	H17	営農技術	継	国庫委託	417				
	(2000)機械収穫適性の高い品種の選定	H14	H17	産地育成	継	国庫委託	418				
	終	M-1-1-1		233	(716)中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の生態把握及び防除技術の開発	H13	H15	営農技術	終	-	
	(1000)レタスにおけるナモグリバエの発生生態と防除法の確立	H13	H15	営農技術	終	県単研究	419				
		S-1-1-2		234	(482)畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル実証	H13	H15	営農技術	終	県単研究	420
	線上	M-1-2-2		235	(752)害虫発生予察支援システムの開発	H13	H15	営農技術	終(線上)	県単研究	421
X-1-1-1		236	(855)気象情報を活用した麦収穫適期判定システムの開発	H14	H15	営農技術	終(線上)	県単研究	422		
産地育成	継	D-2-1-3	237	(H15-46)寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発	H15	H17	産地育成	新	-		
			(1000)生長調節シナリオの策定	H15	H17	産地育成	新	国庫委託	423		
			(2000)寒締めデグリーアワーの策定	H15	H17	産地育成	新	国庫委託	424		
		D-2-1-1		238	(880)地域適応性に優れた品種の選定	H14	H16	産地育成	継	-	
	(1000)ホウレンソウの品種選定	H14	H15	産地育成	終(線上)	県単研究	425				
	(2000)キャベツの品種選定	H14	H16	産地育成	継	県単研究	426				
	(3000)ダイコン優良品種の選定	H14	H16	産地育成	継	県単研究	427				
		D-2-2-1		239	(828)カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発	H14	H16	産地育成	継	県単研究	428
		D-3-2-2		240	(H15-33)高冷地レタスの高位安定生産技術の確立	H15	H19	産地育成	新	-	
	(1000)腐敗性病害の発生実態の解析	H15	H17	営農技術	新	県単研究	429				
	(2000)優良品種の選定	H15	H17	産地育成	新	県単研究	430				
	(3000)総合防除技術の確立	H15	H19	産地育成	新	県単研究	431				
		E-2-1-4		241	(H15-34)花壇苗及び鉢花の高収益栽培技術の確立	H15	H17	産地育成	新	-	
(1000)秋出しパンジーの商品化率向上技術の確立	H15	H17	産地育成	新	県単研究	432					
(2000)県北地域に適する花壇苗・鉢花品目の選定と商品化技術の確立	H15	H17	産地育成	新	県単研究	433					
終	S-2-2-1		242	(713)雨よけほうれんそう大型経営育成のための技術確立	H13	H15	産地育成	終	-		
(1000)高位安定生産技術の開発	H13	H15	産地育成	終	-						
(1100)遮光方法の検討	H13	H15	産地育成	終	県単研究	434					
(1200)かん水方法の検討	H13	H15	産地育成	終	県単研究	435					
(1300)効率的生産のための栽培技術検討	H13	H15	産地育成	終	県単研究	436					
(2000)省力低コスト化技術体系の組み立て	H13	H15	営農技術	終	県単研究	437					
やませ利用	継	B-2-2-3	243	(H15-36)葉たばこ用新資材の実用化	H15	H17	やませ利用	新	民間委託	438	
		K-1-3-1	244	(H14-05)葉たばこ栽培における生分解性マルチ資材の後処理技術の確立	H14	H16	やませ利用	継	令達	439	

主査研究室 (小課題)	実施区分	主推進構想	連番	(課題番号) 課題名	開始年	終了年	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
やませ利用	終	B-1-1-1	245	(82) 普通作物等の多収良質品種の育成	S56	H15	やませ利用	終	-	
				(1000) 小麦奨励品種決定調査	S56	H13	やませ利用	過	-	
				(2000) 大豆奨励品種決定調査	S56	H13	やませ利用	過	-	
				(3000) そば優良系統の選抜	H13	H15	やませ利用	終	県単研究	440
		B-1-1-2	246	(H14-04) アマランサスの品種特性評価技術確立	H14	H15	やませ利用	終	国庫委託	441
		S-1-1-2	247	(171) 大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立	H13	H15	やませ利用	終	-	
	(1000) 継続実施可能な有機物施用方法の検索			H13	H15	やませ利用	終	-		
(1100) 畜産由来有機物利用低コスト土壌改良効果の確認	H13			H15	やませ利用	終	県単研究	442		
			(1200) 緑肥を組み入れた普代型モデル輪作体系の実証	H13	H15	やませ利用	終	県単研究	443	
	繰上	B-1-1-2	248	(863) 市場性を考慮した雑穀優良系統の選抜	H14	H15	やませ利用	終(繰上)	県単研究	444

(3) 要望課題の措置

平成16年度に実施を要望する試験研究課題の検討結果

措置区分 A=平成16年度実施
B=現在実施中
C=既知見あり
D=次年度実施できない

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室(主査)	検討部会
1	大東町認定農業者の会(岩手県農業会議)	樹木粉碎機のチップ片の再利用	(1)チップ片の有効活用の確立 (2)果樹せん定枝のチップ化による堆肥化の方法 (3)堆肥施用にあたって病害等の心配 (4)その他の活用(培土、土壌改良、きのこ栽培の菌床、消臭等) (5)樹種別の利用適否	A C	果樹専門技術員室	園芸畑作部会(果樹)
2	全農岩手県本部 営農対策室	りんご園の農薬安全使用に対応する単植園化と安定生産技術の確立	りんごでの農薬の安全使用、病虫害防除の効率化、低コスト、省力化のための ・適正な単植園の規模 ・受粉用品種の選抜 ・受粉樹の混植割合、植栽様式、密度 ・単植園での生産量の確認	A D	果樹	園芸畑作部会(果樹)
3	全農園芸部	雇用型野菜農家育成手法の確立(主に大規模果菜作農家を対象として)	・雇用を前提とした場合の野菜経営のあり方等、具体的な展開手法 ・雇用を導入する場合の労務管理手法等経営管理者として具備すべき条件	B C	農業経営	園芸畑作部会(野菜)総合部会
4	全農岩手県本部	飼料用トウモロコシの不耕起及び簡易耕起栽培技術の確立	(1)岩手における飼料用トウモロコシの不耕起栽培、簡易耕起栽培の可能性を探るための栽培試験。 (2)不耕起及び簡易耕起栽培に必要な圃場条件、施肥方法、連作による生産性の低下等の検討。	A	飼料生産	畜産部会
5	全農岩手県本部	生乳中の生菌数低減対策の検討	(1)畜産研究所搾乳施設を利用して生菌数が多くなる原因とその対策を検討する。 (2)菌の種類ごとに増えやすい場所、条件等を検討、その菌の特徴をつかんだ有効な対策を検討する。	C	家畜飼養	畜産部会
6	(社)岩手県農産物改良種苗センター	平成14年産小麦種子の発芽率低下の原因と対応技術の確立	平成14年産小麦種子で、見かけ上の品質が良好であっても、品種及び収穫時期の違いによって発芽率が著しく低下した種子が生産されたが、その原因が不明である。今後でも再発する可能性があるため、対応技術を確立してほしい。	C D	野菜畑作生産工学	園芸畑作部会(畑作物)
7	(社)岩手県農産物改良種苗センター	大豆種子の発芽時における発根障害と種子としての機能の確認	(1)平成14年産大豆種子で、発芽時に胚軸から幼根が伸長しない種子が20~25%程度発生した。その種子は数日後胚軸から細根が伸長した。(図参照) (2)幼根が伸長しない原因と種子としての機能の解明を要望する。	C	専門技術員室	園芸畑作部会(畑作物)
8	流通課	水稻の有機栽培技術の確立	水稻有機栽培における民間栽培技術の評価と寒冷地に対応した栽培技術の確立を図る。	D	環境保全水田作土壌作物栄養病理昆虫	農産部会
9	流通課	りんごの減農薬・減化学肥料栽培技術の確立	りんごにおける減農薬・減化学肥料栽培技術の確立を図る。	A	環境保全病理昆虫土壌作物栄養	園芸畑作部会(果樹)
10	流通課	食品廃棄物等有機性資源の肥料化における発酵条件と農産物の生育・品質に与える影響	食品廃棄物や家畜ふん尿など有機性資源のリサイクルについては、堆肥利用が主体となっているが、その発生量の多さから、肥料としての利用も不可欠となっている。また、特別栽培農産物に係る表示ガイドラインにおける減化学肥料栽培に対応した有機質肥料の供給についても、低コストで有効な手段が求められてきている。現在、肥料利用は、原材料による製品の成分の変化や土壌に与える影響、生育に及ぼす影響など未解明の部分が多く、それぞれの実施主体で試行錯誤しながら対応している状況にある。このため、有機性資源の種類等に応じた適切な発酵条件の解明とその製品の成分、生育に与える影響についての検討が必要である。	A C	土壌作物栄養飼料生産土壌作物栄養	総合部会
11	農林水産部畜産課	有機牛肉生産における日本短角種子牛の放牧育成技術の確立	無農薬、無化学肥料による草地並びに野草地の維持管理・堆肥の施用による牧養力の向上と適正な放牧管理 放牧管理と子牛育成・D・Gの確保と放牧衛生予防薬等の未使用の取り組み	A C	外山畜産	畜産部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室(主査)	検討部会
12	農林水産部 畜産課	牛乳の機能性食品としての評価について	(1)乳中成分における機能性成分の分析・調査 (2)給与飼料が機能性成分含有量に与える影響調査 (3)機能性成分含有量を高める飼養管理技術の確立	D D	家畜飼養	畜産部会
13	北上地方振興局 農林部	融雪等による除雪技術の開発	(1)融雪剤を使用した場合の土壌や作物への障害 (2)融雪剤の効果 (3)新たな融雪剤等の開発	C	専門技術員室	総合部会
14	一関地方振興局 農林部	草地(飼料畑)の窒素施用基準(堆肥の連続施用条件下における)	(1)土壌診断に用いる簡易な土壌中有効態窒素分析法の検討。平成18年度まで (2)有機態窒素から無機態窒素への移行量の推定(土壌分析値による)平成18年度まで (3)窒素の減肥基準の作成平成20年度まで	B	飼料生産	畜産部会
15	二戸地方振興局 農政部	東北地域における米の産地力強化	(1)米の品質・食味と標高や地域性との関係の精度 (2)東北における水田営農組織育成手法の検討 (3)「東北産米ならではの」販売戦略の検討	C	専門技術員室	農産部会
16	二戸地方振興局 農政部	公共牧場における発酵鶏糞の利用マニュアル作成	鶏糞施肥マニュアルの作成(施肥量、草地の持続性に及ぼす影響、嗜好性に及ぼす影響、経済効果、発酵堆肥の熟度評価法)	A	外山畜産 飼料生産	畜産部会
17	千厩地方振興局 千厩農村整備事務所	農地還元を前提とした場合の農業集落排水汚泥の利用方法、安全性に検討	・農業集落排水汚泥の農地還元利用に係る手法確立。(H17) ・農地還元利用を前提とした場合の「農業集落排水汚泥」の安全性に係る基準、及び簡易な安全性確認手法の確立。(H17)	B	土壌作物栄養	総合部会
18	千厩地方振興局 千厩農村整備事務所	軟弱地盤地帯である門崎地区ほ場整備事業の施工技術及び畑作物等の導入を前提とした営農対策技術の検討	(1)地下水が高いことに起因するコーン指数2.0kgf/cm ² 未満の粘性土壌水田でのほ場整備工法の検討・選定(H16まで) (2)ほ場整備後の水田土壌挙動の検討と対策の確立(H17まで) (3)ほ場整備後の畑作物等を前提とした場合のほ場排水対策及び営農技術対策の確立(H18まで)	D	生産工学 土壌作物栄養	農産部会
19	農業大学校	「生産技術体系」の追加更新及び「クーパー博士」のバージョンアップ	(1)生産技術体系の更新 (2)ネットワーク対応型の経営設計システムの開発	A	農業経営 関係研究室	総合部会
20	盛岡農業改良普及センター	飼料用トウモロコシの獣(熊)害防除のための電気牧柵の設置方法	熊による食害を防ぐため放牧用の電気牧柵が使われている事例があるが、この効果的な設置方法(電圧や設置形態など)を明らかにする。	C	専門技術員室	畜産部会
21	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	高WSC含量の牧草栽培技術	(1)刈り取り時期(時間)、施肥、草種等がWSC含量に及ぼす影響 (2)サイレージ化するにあたって適当なWSC含有量	C C	飼料生産	畜産部会
22	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	本県におけるコーンプロセッサー導入効果	(1)コーンプロセッサー導入による踏圧効果及び品質効果 (2)コーンプロセッサー調整サイレージの消化率	D	飼料生産	畜産部会
23	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	草地の物理性改善による肥効、収量等への効果	(1)長期間にわたり重量機械によって硬化した草地での物理性改善による収量アップ効果の確認 (2)物理性改善による肥料効率の確認 (3)現場で容易に測定可能な草地の硬化程度	C C C	飼料生産	畜産部会
24	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	肥育牛における尿石症、肝炎対策	肉質を重視した牛肉生産を目的とした濃厚飼料多給肥育が行われている。しかし、過剰な飼料給与により、消化器官に多大な負荷がかかり、尿石症、肝炎等の疾患を引き起こす結果となっている。このため、飼料の消化性や具体的な飼料要求量を調査し、消化器官を健全に機能させる必要がある。	A	家畜育種	畜産部会
25	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	肥育牛における抗生物質、抗菌性物質の代替	食に対する安全志向が高まっている社会情勢の中で、健康畜にあらかじめ抗生物質が添加されている配合飼料を給与することは、その畜産物への購買意欲を減退させる可能性がある。そのため、抗生物質の代替品の紹介と効果を調査する必要がある。	D	家畜育種	畜産部会
26	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	おいしい牛肉の解明	現在の日本格付協会による牛肉格付は、脂肪交雑がきめ、しまり等、外貌上の特徴により行われており、食味に対応するものではない。そこで、おいしさを客観的に数値化することでより詳細な牛肉の情報を消費者へ提供を可能とする。	B	家畜育種	畜産部会
27	水沢農業改良普及センター	夏秋施設果菜産地における生物農薬等を利用した減化学農薬栽培技術の確立	(1)化学農薬の使用量を減らす具体的な防除技術体系の確立平成18年 (2)夏秋産地で成功する天敵利用技術のポイントを明らかにする平成17年	B A	病理昆虫 環境保全	園芸畑作部会 (野菜)

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室(主査)	検討部会
28	水沢農業改良普及センター	酪農メガファームの成立要件の検討	(1)酪農メガファームの経営がうまくいく要件を明らかにする。 (2)酪農メガファームのクリアすべき技術要件を実証する。	A	農業経営 家畜飼養	畜産部会
29	一関農業改良普及センター	稲発酵粗飼料の超低コスト生産技術の確立	(1)低コスト直播栽培技術の確立 特に無コーティング直播あるいは低コストコーティング資材の利用による直播栽培の確立 (2)新規投資の少ない田植機利用直播(マット利用)の有効性の検証 (3)中山間地向けの移植栽培(粗植、乳苗等)によるWCS栽培体系 (4)病害虫抵抗性品種等(マルチライン利用、抵抗品種の混植栽培技術、既存の高度抵抗性品種等)の利用による低コスト病害虫防除体系の確立	B	水田作 飼料生産	農産部会
30	一関農業改良普及センター	いちごの高設栽培における施肥削減	慣行の土耕栽培より高設栽培の方が減肥可能であることの実証成果	A	南部園芸	園芸畑作部会(野菜)
31	一関農業改良普及センター	稲発酵粗飼料(WCS)の安定給与技術の確立	(1)現地におけるWCS発酵品質評価基準の作成 平成17年度まで (2)畜種別WCS適正給与量の検討と給与マニュアルの作成 平成17年度まで (3)コントラクター等によるWCS安定流通の条件 平成17年度まで	D B C C	飼料生産 飼料生産 家畜育種 農業経営	畜産部会
32	宮古農業改良普及センター	契約販売の事例集の発行と契約数量の限界点の評価	近年、量販店等との契約販売による農産物の出荷が進んできているが、産地では安定的な契約数量確保の試算方法等が確立されていない状況にある。 今後、契約販売により安定的に農産物の価格を確保するため、契約販売の事例を収集するとともに、出荷量に対する契約販売可能な数量を気象条件などを勘案して限界点の評価を行う。	C	専門技術員室	総合部会
33	宮古農業改良普及センター	消費者・量販店の青果物に対する意識調査	産地偽装問題、登録失効農薬の不正使用などの問題により、消費者の食品青果物に対する評価が厳しくなっている。 そこで、 (1)農薬に対する認識、安全な野菜の条件、安定的な野菜供給の必要性の認識程度等について把握するため、消費者・消費者団体・量販店担当者・市場担当者等を対象としたアンケート調査を実施し、現在の野菜生産における課題点を整理する。 (2)また、有機農産物と慣行栽培農産物の消費動向についても調査する。	B C	農業経営	総合部会
34	宮古農業改良普及センター	わさびの花芽形成・休眠特性の把握	冬期間の所得確保として促成わさび栽培の導入が進んできているが、より所得を向上させるためには単価的にも高い花茎出荷の割合を増やすことが重要である。 しかしながら、わさびの抽台生理については充分な解明がなされていないことから、低温遭遇時間の不足による花芽の減少が起り安定的な生産ができない事例が見られる。このため、花芽形成にかかる根株の低温要求量について特定を行ってほしい。	C D	野菜畑作	園芸畑作部会(野菜)
35	宮古農業改良普及センター	近紫外線除去フィルムの特性把握	近紫外線カットフィルム各資材について、効果の経時変化(吸収率が低下程度)などの資材特性を明らかにすることにより、資材選択が容易となり、効率的な病害虫防除技術の確立につながる。	C	専門技術員室	園芸畑作部会(野菜)
36	久慈地方振興局 農政部、久慈農業改良普及センター	久慈地方における寒じめほうれんそうの栽培法の確立	久慈地方における寒じめほうれんそうの栽培法の確立 (1)露地及びハウスの各作型における播種時期及び収穫開始時期の設定 ア 気象条件(温度・日照)と生育反応(縮葉や開帳のメカニズム)及び生育相の解析 イ 気象条件が栄養成分に及ぼす影響 ウ 生育可能な地帯区分の設定 (2)露地及びハウスの各作型における施肥法(基肥・追肥)と効率的な栽植密度の策定 (3)栄養価が高いなど有利販売が可能な寒じめ作型品種の検索 (4)寒じめ作型導入によるハウスの周年連作体系での萎凋病等連作障害への影響とその対応策	B D B A	産地育成 保鮮流通技術	園芸畑作部会(野菜)
37	久慈地方振興局 農政部、久慈農業改良普及センター	ほうれんそうの夏期栽培法の見直し	ほうれんそうの夏期栽培法の見直し (1)夏期栽培向け品種の検索(丸葉も含めて) (2)栽植密度、灌水方法等夏期の栽培法の見直し (3)ハウス内気温低下方法の検討	B B B	産地育成	園芸畑作部会(野菜)
38	二戸農業改良普及センター	りんどう褐斑病の発生生態の解明	(1)りんどう褐斑病の発生生態の解明 (2)発生生態に基づいた効果的な防除対策の確立	C B	病理昆虫	園芸畑作部会(花き)

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
39	二戸農業改良普及センター	りんどうの栄養サイクルに関する基礎的研究	(1)養分の吸収・貯蔵・消費についての年間動態の解明 特に窒素の動態解明 茎葉の生長が、貯蔵養分依存から自立栄養に転換する時期の解明 (2)窒素供給時期が切り花品質や株の生育に及ぼす影響の解明	B D D	土壌作物栄養 花き	園芸畑作部会 (花き)
40	二戸農業改良普及センター	大型機械等の走行が畑地の耕盤形成に及ぼす影響の解明と防止対策	(1)大型機械等の走行畑地の耕盤形成に及ぼす影響 耕盤がどのように形成されるかの過程解明 透水性に与える影響 (2)防止対策技術の開発 野菜栽培の継続を前提とした透水性改善対策技術の開発 ブラソイラーやサブソイラー等の効果、実施間隔の明確化 降雨量が降雨後の防除作業に及ぼす影響と速やかに撒布できる技術の開発	B	産地育成 生産工学 営農技術	園芸畑作部会 (野菜)
41	二戸農業改良普及センター	排水不良畑地土壌における低コストで効果的な透水性付与技術の開発	飼料作物導入による透水性改善効果 緑肥作物等を組み入れた輪作体系等の透水性改善効果 ブラソイラーやサブソイラー等農家レベルで実施できる排水対策技術の効果度や実施間隔	B	産地育成 生産工学 営農技術	園芸畑作部会 (野菜)
42	二戸農業改良普及センター	小規模栽培面積を想定した雑穀の機械化栽培体系技術の開発	機械化(小型播種機+中耕培土機+バインダー+小型の脱穀機+乾燥法)体系と栽培法の確立対象作物:あわ、ひえ、いなきび、そば、だったんそば、アマランサス	A	営農技術	
43	二戸農業改良普及センター	雑穀在来品種の生態的並びに栄養価としての特性把握	雑穀在来品種の生態的特性把握 栄養価としての特性把握 用途別にみた場合の適性分類	B	やませ利用 保鮮流通技術	
44	二戸農業改良普及センター	鶏ふん焼却灰の土壌改良資材としての利用特性の解明	(1)鶏ふん焼却灰の土壌改良資材としての利用技術 鶏ふん焼却灰の県内における生産実態(生産量、流通実態、規格・品質等) 土壌改良資材としての特性(化学成分、アルカリ含量等) 土壌改良効果と適正施用量	C	専門技術員室	

4 共同研究等の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究（国庫 1 / 2 補助）

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	主査研究室
不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術の確立	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試 秋田農試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術	宮城古川農試 山形農試	13～16	東北北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学
地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立	北海道畜試 青森畜試 秋田畜試 宮城畜試 福島畜試	14～16	資源循環型の高品質な自給粗飼料生産技術、高能力牛の飼養管理技術の確立	飼料生産

(2) 先端技術等地域実用化研究促進事業（国庫 1 / 2 補助）

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学
リンゴわい化栽培における省力・安定生産のための JM 台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城農・園総合研 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できる JM 系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形園試 福島農試 鳥取園試	12～15	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き

(3) 国庫委託研究事業（国庫 10 / 10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 ・ 麦類（耐寒雪性） ・ 大豆（立枯性病害抵抗性）	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る	野菜畑作 野菜畑作
系統適応性検定試験事業 ・ 水陸稲 ・ 馬鈴薯 ・ 小豆 ・ とうもろこし ・ 果樹	国	継続	国及び育種指定試験試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	水稲育種 野菜畑作 野菜畑作 飼料生産 果樹
種苗特性分類調査 ・ アマランサス	国	14～15	品種登録のため、主要品種の特性を調査するとともに審査基準の案を作成する。	やませ利用

(4) 交付金プロジェクト委託研究 (10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
画期的園芸作物新品種創出による超省力栽培技術の確立	(独)果樹研究所	13～17	リンゴのカラムナータイプに適合した省力技術体系の開発	果樹
特定資材を用いた現地農法に関する総合研究	(独)東北農業研究センター	12～16	電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証	環境保全
寒冷地におけるイチゴの周年供給システムの確立	(独)東北農業研究センター	15～19	東北北部内陸地域における夏秋どり新作型の開発	野菜畑作
			超促成・越年(株)型経営モデル作成	農業経営

(5) 委託プロジェクト研究 (10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
有用遺伝子活用のための植物(イネ)・動物ゲノム研究	(独)農業生物資源研究所	13～15	イネの遺伝子機能-圃場生産インターエース型シミュレーターの開発	水稲育種
新鮮でおいしい「ブランドニッポン」農産物提供のための総合研究	(独)野菜茶業研究所	14～16	ハウレンソウの機械収穫に適した品種の選定	営農技術
	(独)東北農業研究センター	15～17	有望小麦系統の高品質・安定多収栽培技術の開発	野菜畑作
			麦後大豆の高品質栽培技術の確立	野菜畑作
農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	(独)農業環境技術研究所	15～17	東北地域における野菜の低吸収・低蓄積機構の解明	環境保全
			動態モデル開発のための水田用農薬の動態解明	環境保全
食品の安全性及び機能性に関する総合研究	(独)農業生物資源研究所	15～19	日本短角種の全個体認証システムの構築	家畜育種
細断型ロールペーラの開発促進評価試験	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	14～15	21世紀型農業機械等緊急開発事業で開発した農機について実用化のための資料を得るもの	飼料生産
データベース・モデル協調システムの開発	(独)中央農業総合研究センター	13～16	分散協調型農業技術体系データベースを用いた生産計画支援システムの開発	農業経営

(6) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 (10 / 10 委託)

課題名	中核機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
野菜における硝酸塩蓄積機構の解明と低減化技術の開発	(独)野菜茶業研究所	14～16	塩基バランス制御によるハウレンソウ、キャベツの硝酸塩濃度低減化	土壌作物栄養
日本短角種 DM 牛の高度活用による次世代型機能性健康ビーフの開発	東北大学大学院	15～19	早期遺伝子診断を取り入れた優良種雄牛短期造成技術の開発	外山畜産
寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発	(独)東北農業研究センター	15～17	寒締め野菜の品目の拡大と環境調節シナリオの策定	産地育成

(7) 民間委託研究 (10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
たばこ耕作資材試験	(財)日本葉たばこ技術開発協会	継続	資材 3件	やませ利用
農薬及び植物調節剤等の効果検 定試験	(社)岩手県植物防疫協会	継続	新農薬効果試験 58件	病理昆虫
	(財)日本植物調節剤研究協会	継続	除草剤実用化試験 36件	水田作 野菜畑作 果樹 やませ利用
	新稲作研究会	15	水田用除草機の性能確認試験 1件	生産工学
	(社)農林水産航空協会	15	無人ヘリコプターによる小麦の赤か び病防除試験 1件	野菜畑作
肥料の効果に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	継続	水田作 1件 生産工学 1件 野菜畑作 4件 土壌作物栄養 8件 保鮮流通技術 2件 果樹 2件 営農技術 7件 産地育成 3件 南部園芸 3件	主査： 土壌作物栄養
東北新幹線盛岡・八戸間鉄道施 設の日陰に伴う農作物影響調査	(独)鉄道建設・運輸 施設整備支援機構 鉄道建設本部 盛 岡支社	15	東北新幹線盛岡・八戸間において、 岩手県内の沿線で作付けされた農作 物に対し、新幹線高架橋による日照 不足で生じる影響を調査し評価する	水田作

(8) 夢県土いわて戦略的研究推進事業 (科学技術課所管 公募競争型 県単)

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
フラットベットスキャナを用い た土壌全炭素簡易推定キット開 発	工業技術センター	15~16	土壌全炭素含量の簡易推定用キット 試作品開発	土壌作物栄養
野菜類の残留農薬分析における 簡易分析法の開発	環境保健研究センタ-	15~17	イムノアッセイ法による野菜類の残 留農薬の簡易・迅速な分析手法の開 発	環境保全
新遺伝子増幅技術「LAMP 法」 を用いた病原ウイルス・ウイロ イドの検出に関する調査 (試験研究機関機能強化推進事業可能性調査研究)	(財)岩手生物工学研 究センター	15	(1) LAMP 法の原理についての学習 (2) LAMP 法の実験手法の学習 (3) 実用化した先進地の事例調査 (4) ウイルス診断に関する情報収集	応用生物学

(9) 21世紀型農業経営モデル実証試験 (県単)

課題名	振興局 (市町村名)	研究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研究室
畑地かんがい地帯における野 菜、花き等の高収益モデル実証	盛岡 (岩手町)	13~15	(1) 有機質資源の活用指針の作成 (2) 効率の高い稲作・転作営農技術の確立 (3) 土壌水分予測に基づく効率のかん水技術の 開発	営農技術
水田を活用した持続的作付体系 及び優良種苗の安定確保による サトイモ産地強化の実証	北上 (北上市)	13~15	(1) 根腐病対策を中心とした水田活用による持 続型作付け体系の実証 (2) 優良種苗の現地選抜	野菜畑作 応用生物 病理昆虫

課 題 名	振興局 (市町村名)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研 究 室
大規模ほ場整備地区におけるほ場畦畔の雑草抑制と景観形成技術確立	水沢 (胆沢町)	13～15	(1) 町委託事業への参画による有望 GCP の検討 (2) 有望 GCP の増殖管理技術の検討	水田作 生産工学
水田地帯における園芸生産の高度・安定化「いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化」	一関 (花泉町)	13～15	(1) 新品種導入に際する技術支援 (2) 短日処理技術実証に係る技術支援 (3) 導入技術に対する経営モデル確立	南部園芸
東磐井地区における園芸省力安定生産モデル経営の実証	千厩 (大東町)	13～15	(1) トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証確立	南部園芸
ほ場整備地区における園芸団地形成に向けた農業経営の確立	大船渡 (陸前高田市)	13～15	(1) 農業経営モデルの分析・評価	農業経営
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野 (遠野市)	13～15	(1) ほうれんそう大型経営の栽培技術実証	野菜畑作 産地育成
沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	宮古 (宮古市)	13～15	(1) トルコギキョウの良品生産技術の指導 (2) スプレーギクの日長管理技術の指導 (3) オリエンタル系ゆりの良品生産技術の指導 (4) ストックの良品生産技術の指導 (5) 花き周年栽培モデル体系の確立	花き
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普及型安定生産技術体系の確立	久慈 (普代村)	13～15	(1) 野菜・緑肥を中心とした輪作体系の確立 (2) 灌漑施設を利用した野菜安定栽培技術の確立 (3) 新規開発畑における土壌管理・輪作マニュアルの策定 (4) 経営感覚に優れた主業型農家の育成	やませ利用 農業経営 営農技術

(10) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稲の耐病性評価	応用生物工学
DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	水稲育種 応用生物工学
りんどう病原ウイルス (CMV 等) の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス (TSWV) の検出・診断技術の確立及び利用	応用生物工学
アグロバクテリウム・リゾジェネス A4 菌を用いた矮化リンドウの特性評価	応用生物工学 花き
耐病性関連遺伝子を導入したりんごの糸状菌病抵抗性評価	応用生物工学
リンゴ根頭がんしゅ病菌の検出・診断技術の確立と利用	病理昆虫 応用生物工学
ピーマン病原ウイルス (PMMoV) の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	応用生物工学
ナス科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

(11) 大学との共同研究

課 題 名 等	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

(12) AFR(岩手農林研究協議会)研究会
ア 研究会

名 称	構 成	研究期間	共同研究者
花卉育種研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	児玉 勝雄、内藤 善美、阿部 潤、茂市 修平、川村 浩美、藤井 伸行、高橋 聡子、葛巻美和子、小田島 雅
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部・教育学部、岩手医大、岩手県農業研究センター、岩手県立農業大学校	10～	鈴木 敏男、藤沢 巧、大友 令史、後藤 純子、桐山 直盛
植物育種研究会	岩手大学農学部・教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター	10～	木内 豊、中野 央子、仲条 眞介、田村 和彦、阿部 陽
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	勝部 和則、猫塚 修一、阿部 弘
機能性食品研究会A(雑穀)	岩手大学農学部、岩手大学大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	大清水保見、長谷川 聡
機能性食品研究会B(豆腐)	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター、黒川食品㈱、花巻起業化支援センター	10～	門間 剛
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	高橋 修、大里 達朗、藤井 智克、高橋 昭喜
乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧、日本金葉工業	10～	阿閉 博明、菊地 正人、山口 直己、茂呂 勇悦
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	高橋 政夫、大清水保見、小田中温美、吉田 宏、尾形 茂、臼井 智彦、寺田 道一、藤田 智美、及川 あや
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	佐々木 仁、鈴木 哲、小野 浩司、河田 道子、奥平麻里子、浅川 知則
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	阿部 潤、児玉 勝雄、竹澤 利和、阿部 弘、安ヶ平紀子
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、生物工学研究所	12～	中野 央子、仲条 眞介、田村 和彦、阿部 陽、竹澤 利和
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	12～	飯村 茂之、勝部 和則、大友 令史、桐山 直盛、長谷川 聡
ホップの機能性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	高橋 壯
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター	12～	川畑 茂樹、高橋 修、小野 剛志、折坂 光臣、佐藤 千秋、高橋 正樹、高橋 良学、小田島川ミ子、松浦 拓也
始原生殖細胞(PGCs)利用研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、小岩井農牧	13～	小松 繁樹、吉田 登
里地・里山生物多様性研究会	岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、岩手県農業研究センター	14～	阿部 節男、武田 眞一、築地 邦晃、佐藤千穂子、鈴木 敏男、後藤 純子、大友 令史

名 称	構 成	研究期間	共同研究者
硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、岩手県農業研究センター	14～	築地 邦晃、小野 剛志、中野 亜弓、平賀 昌晃、小田嶋 ルミ子、高橋 好範
食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、岩手県農業研究センター	14～	小松 繁樹、川畑 茂樹、鈴木 賢、吉田 登、安田 潤平、松木田裕子
農業IT活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、岩手県農業研究センター	15～	武田 眞一、前山 薫、鈴木 敏男、勝部 和則、後藤 純子、大友 令史、猫塚 修一、高橋 正樹、高橋 良学、平賀 昌晃、沼田 芳宏、佐藤千穂子、折坂 光臣、桐山 直盛、松浦 拓也

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
15. 8. 1	農業研究センター	(1) AFR 協議会 現状評価、今後の活動予定、報告事項 (2) 成果報告会 79名出席 6成果を報告
15.11.28	岩手大学	シンポジウム 「農林業と産学官連携～地域の期待」(財)岩手経済研究所 谷藤 邦基主任研究員 「植物研究への期待～コンボン研究所及びトヨタにおける研究展開」 (株)コンボン研究所 井上 恵太

(13) その他共同研究契約

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の内部品質向上対策のための品質評価に関する研究	全農岩手県本部	13～15	(1) 野菜の内部品質評価のための簡易分析法開発及び成分変動要因の解析 (2) 化学分析による成分評価及び県産野菜の成分実態調査	保鮮流通技術
黒毛和種及び日本短角種における経済形質に関わるゲノム解析研究	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の半兄弟家系を作成し、DNA マーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、劣性遺伝病について、発病牛家系の DNA マーカーによる連鎖解析を行い、原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
降霜予測手法の開発	横河電子機器(株)	14～16	(1) 降霜現象を気象因子から解析し、降霜推定式を開発する。 (2) 降霜現象を客観的に自動でモニタリングする手法を開発する。	環境保全
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	(1) 植物、動物、微生物の生物遺伝資源及び DNA の相互交換	-

(14) その他産学官連携

名称	開催月日	場 所	内 容
イーハトーブ産学官連携推進の成果と課題発表会 〔岩手大学地域共同研究センター〕 10周年記念行事	15.10.8	盛岡市	記念講演「21世紀の新しい産業の創造を目指して～産学官連携に期待するもの」(岩手県知事) ・ 農業研究センター共催 ・ ポスターセッションに4題参加
岩手県産学官連携会議	年6回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域共同研究センター
作物ゲノム育種ネットワークグループ	-	-	事務局：(独)作物ゲノム育種センター 参加職員：田村和彦、竹澤利和、安ヶ平紀子
寒冷圏未利用資源研究ネットワーク	-	-	事務局：岩手大学大学院連合農学研究科

5 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
草花花木流通情報サポートシステム設置実証(地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立)	八戸市	県北中山間	企画経営情報部 農業経営研究室 産地育成研究室
	軽米町	〃	
	大野村	〃	
	二戸市	〃	
県南沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編モデルの策定(21世紀型農業経営モデル実証試験地事業)	陸前高田市	浜田川	農業経営研究室
水稻奨励品種決定現地調査(粳)	雫石町	上野	農産部 水田作研究室
〃	紫波町	星山	〃
〃	西根町	大更	〃
〃	花巻市	矢沢	〃
〃	沢内村	前郷	〃
〃	胆沢町	小山	〃
〃	江刺市	稲瀬	〃
〃	花泉町	花泉	〃
〃	千厩町	千厩	〃
〃	遠野市	青笹	〃
〃	山田町	豊間根	〃
〃	陸前高田市	竹駒町	〃
〃	種市町	宿戸	〃
〃	浄法寺町	浄法寺	〃
〃	紫波町	南日詰	〃
〃	一関市	厳美町	〃
県産米の品質・食味レベルアップ現地実証栽培 (純情米総合実証展示圃)	一関市	中里	水田作研究室
〃	前沢町	古城	〃
〃	水沢市	佐倉河	〃
〃	胆沢町	大畑平	〃
〃	金ヶ崎町	永栄	〃
〃	江刺市	稲瀬	〃
〃	北上市	飯豊	〃
〃	花巻市	宮野目	〃
〃	東和町	前田	〃
〃	遠野市	青笹	〃
〃	石鳥谷町	八幡	〃
〃	矢巾町	東徳田	〃
〃	雫石町	安庭	〃
〃	西根町	平笠	〃
〃	九戸村	荒屋	〃
寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証 (ブランドニッポン)	紫波町	片寄	水田作研究室
不良環境地帯向け水稻品種の育成	沢内村	高下	水稻育種研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
重機の走行がほ場整備後の土壌均一性に与える影響の解明	宮守村	宮守川上流	生産工学研究室
”	江刺市	袖野	”
”	胆沢町	いさわ南部	”
ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証	江刺市	藤里	生産工学研究室
”	胆沢町	小山	”
麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	北上市	藤根	生産工学研究室
ネギの省力機械化体系確立実証	花巻市	太田	生産工学研究室
JM 台木の現地適応性試験	二戸市	金田一	園芸畑作部 果樹研究室
”	宮古市	内の沢	”
”	矢巾町	煙山	”
”	江刺市	小倉沢	”
”	花泉町	花泉町	”
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市	金田一	果樹研究室
”	宮古市	内の沢	”
”	矢巾町	煙山	”
”	江刺市	小倉沢	”
”	花泉町	花泉町	”
食味本位リンゴ栽培体系化実証試験	紫波町	長岡	果樹研究室
麦類奨励品種決定現地調査	紫波町	水分	野菜畑作研究室
”	東山町	長坂	”
大豆奨励品種決定現地調査	前沢町	古城	野菜畑作研究室
”	藤沢町	要害	”
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	玉山村	門前寺	野菜畑作研究室
”	北上市	相去	”
はとむぎの優良品種選定現地試験	東和町	南川目	野菜畑作研究室
”	衣川村	八地	”
豆腐有望品種現地導入試験	江刺市	田原	野菜畑作研究室
”	二戸市	金田一	”
水田を活用した持続的体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証	北上市	二子	野菜畑作研究室
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野市	小友	野菜畑作研究室
地域確立「寒冷地イチゴ」現地実証	盛岡市	飯岡	野菜畑作研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
ネギの低コスト・安定供給技術の実証	花巻市	太田	野菜畑作研究室
ピーマン PMMoV 抵抗性品種の現地実証	石鳥谷町	八幡	野菜畑作研究室
沿岸中山間における花き周年生産モデルの確立	宮古市	老木	花き研究室
りんどう品種育成に係る現地調査	石鳥谷町	北寺林	花き研究室
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き研究室
鉢物りんどうの栽培試験に係る現地調査	北上市	稲瀬	花き研究室
りんどうこぶ症の発生要因の解明	石鳥谷町	戸塚	花き研究室
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」	花泉町	永井	南部園芸研究室
東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	大東町	大原	南部園芸研究室
水稻減農薬栽培技術の確立	江刺市	稲瀬	生産環境部 環境保全研究室
有機農産物生産条件の解明	胆沢町	若柳	環境保全研究室
”	松尾村	松尾	”
”	矢巾町	広宮沢	”
主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立	西根町	平傘	土壌作物栄養研究室
”	遠野市	小友	”
新肥料の実用化 - 減化学栽培対応有機配合肥料の肥効	北上市	成田	保鮮流通技術研究室
寒締め菜っぱの簡易品質評価法	久慈市、西根町ほか		保鮮流通技術研究室
「小枝柿」の脱渋技術の確立	大船渡市		保鮮流通技術研究室
特産作物ハトムギを利用した新規加工品の開発	衣川村		保鮮流通技術研究室
果実を丸ごと使った健康志向食品の開発	花泉町		保鮮流通技術研究室
水稻初期害虫の密度調査 (水稻初期害虫の隔年防除技術の確立)	雫石町	御明神	病害虫部 病理昆虫研究室
”	岩手町	黒内	”
畦畔草刈りによる斑点米カメムシ類の耕種的防除試験 (斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て)	花巻市	太田	病理昆虫研究室
斑点米カメムシ類の薬剤防除時期の検討 (斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て)	金ヶ崎町	六原 (農大)	病理昆虫研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
りんどうこぶ症の土壤消毒試験 (こぶ症発現に関連する微生物・線虫および昆虫の検索)	石鳥谷町	八重畑	病理昆虫研究室
リンゴ紫紋羽病の防除試験 (リンゴ紫紋羽病の発生実態と新たな防除法の開発)	久慈市	広野	病理昆虫研究室
〃	江刺市	米里	〃
〃	花泉町	金沢	〃
〃	二戸市	米沢	〃
〃	藤沢町	上山	〃
〃	岩泉町	乙茂	〃
リンゴ斑点落葉病の防除試験(複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証)	花巻市	外台	病理昆虫研究室
リンゴ防除回数削減体系の実証試験(複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証)	江刺市	小倉沢	病理昆虫研究室
リンゴ褐斑病の防除試験(複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証)	久慈市	広野	病理昆虫研究室
リンゴ炭疽病の感染時期の検討 (リンゴ炭そ病の発生予察技術の開発)	一関市	巖美	病理昆虫研究室
ブドウ晩腐病の防除試験(新農薬の効果検定と防除基準作成)	金ヶ崎町	六原(農大)	病理昆虫研究室
リンドウ褐斑病の防除試験 (りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法)	花巻市	湯口	病理昆虫研究室
キュウリ病害虫総合防除現地実証試験 (きゅうりににおける総合的病害防除技術の確立)	東和町	全域	病理昆虫研究室
レタス腐敗病防除試験(新農薬の効果検定と防除基準作成)	西根町	寺田	病理昆虫研究室
ホップ灰色かび病防除試験 (地域特産物における新防除資材の実用化)	江刺市	稲瀬	病理昆虫研究室
ブルーベリーのショウジョウバエ類発生生態の解明と防除試験 (地域特産物における新防除資材の実用化)	石鳥谷町	新堀	病理昆虫研究室
細断型ロールペーラの基本性能調査	滝沢村	鵜飼	畜産研究所 飼料生産研究室
良質イネホールクロップサイレージ調整技術の確立	紫波町		飼料生産研究室
奥中山地域における液状コンポスト調製システムの確立	一戸町	奥中山	飼料生産研究室
北上山地における黒毛和種肥育素牛育成技術の現地実証	遠野市	貞任	外山畜産研究室
いわてっこの生育診断指標	岩手町	一方井	県北農業研究所 営農技術研究室
〃	久慈市	小久慈	〃
〃	二戸市	上海上	〃

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
奥中山地域における液状コンポストの調製利用システムの確立	一戸町	奥中山	営農技術研究室
新肥料の実用化	軽米町	晴山	営農技術研究室
”	軽米町	山内	”
”	九戸村	荒屋	”
レタス腐敗性病害の発生実態解析	岩手町	奥中山	営農技術研究室
畑地かんがい地帯における野菜・花き等の高収益モデル実証	岩手町	一方井	営農技術研究室
ヒエ・アワの乾燥・調製法	軽米町	軽米	営農技術研究室
県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立	軽米町	山内	営農技術研究室
新農薬の効果検定と防除基準作成	西根町	焼走	営農技術研究室
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立	一戸町	奥中山	産地育成研究室
雨よけハウレンソウ大型経営体育成のための技術確立	軽米町	山内	産地育成研究室
地域適応性に優れた品種の選定(ハウレンソウ)	軽米町	笹渡	産地育成研究室
地域適応性に優れた品種の選定(ダイコン)	大野村	高森	産地育成研究室
特産的花きの商品化技術	二戸市	上斗米	産地育成研究室
いわてっこの栽培法検討	久慈市	小久慈	やませ利用研究室
ヒエの無農薬水田移植栽培	軽米町	上館	やませ利用研究室
21世紀型農業経営モデル実証試験地における現地支援実証試験	普代村	和野山	やませ利用研究室
麦類奨励品種決定現地調査	玉山村	下田	やませ利用研究室
大豆奨励品種決定現地調査	玉山村	下田	やませ利用研究室